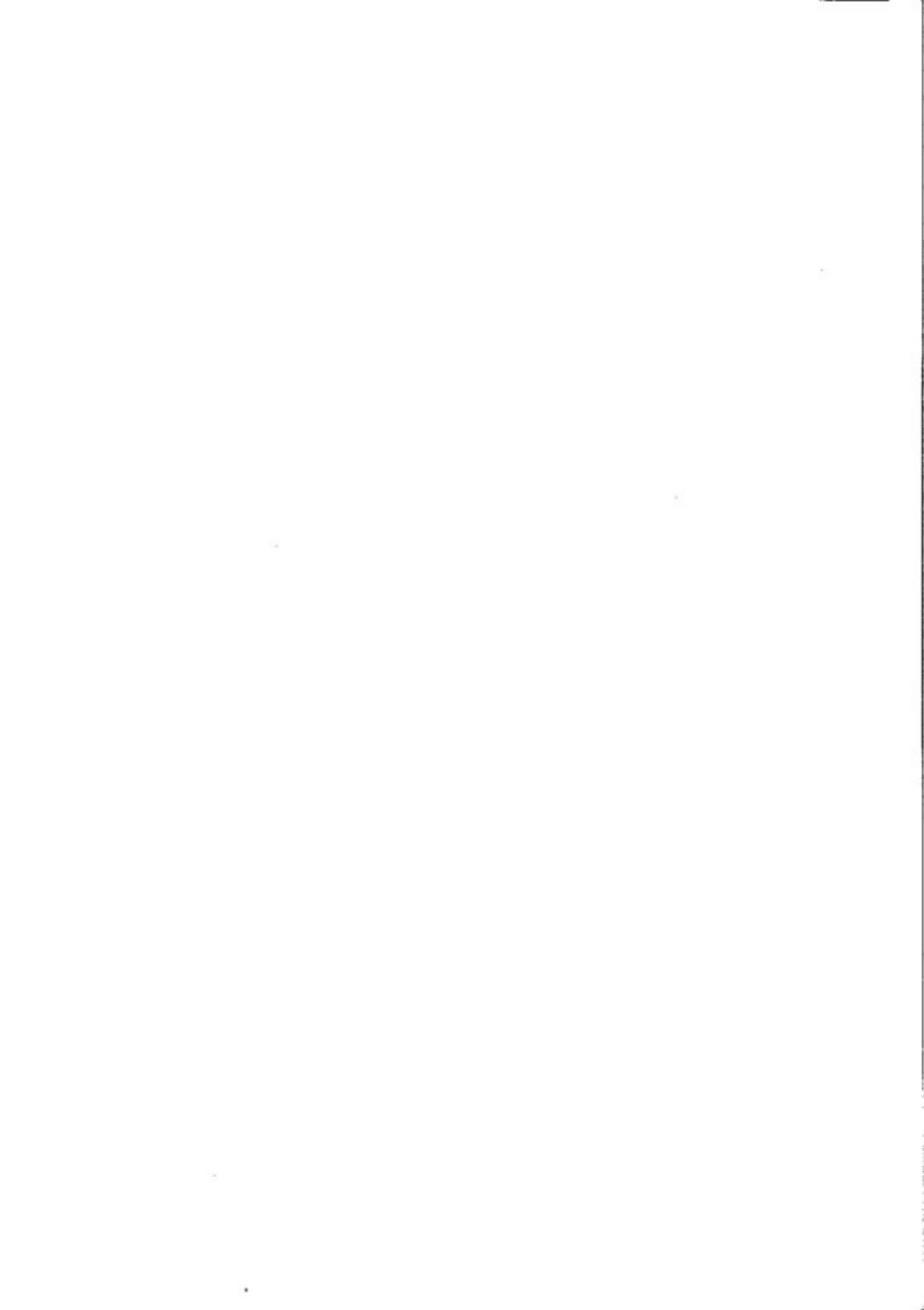


財團法人八尾市文化財調査研究会報告50

- I 木の本遺跡（第6次調査）
- II 久宝寺遺跡（第19次調査）
- III 小阪合遺跡（第27次調査）
- IV 志紀遺跡（第2次調査）
- V 東弓削遺跡（第8次調査）
- VI 美園遺跡（第3次調査）
- VII 八尾南遺跡（第20次調査）

1996年

財團法人 八尾市文化財調査研究会



正誤表

報告50

頁	行	誤	正
序	16行目	石製品一斜線	木製品一斜線
8	16行目	不明である。	不明である。
47	5行目	(SO-1)	(SO-101)
報告書抄録	15行目	調査面積 こざかい	調査原因 こさかあい
報告書抄録	22行目	Ⅲ小阪合遺跡	Ⅲ小阪合遺跡

財團法人八尾市文化財調査研究会報告50

- I 木の本遺跡（第6次調査）
- II 久宝寺遺跡（第19次調査）
- III 小阪合遺跡（第27次調査）
- IV 志紀遺跡（第2次調査）
- V 東弓削遺跡（第8次調査）
- VI 美園遺跡（第3次調査）
- VII 八尾南遺跡（第20次調査）

1996年

財團法人 八尾市文化財調査研究会

はしがき

大阪府の東部に位置する八尾市は、東部の生駒山地から西部に広がる河内平野を占地しており、その豊かな自然環境のもとで、先人達が残した貴重な文化遺産が数多く存在しています。

平野部においては、古大和川のもたらした豊富な水量と肥沃な土壌を背景として、水稻耕作の初期段階から活発な開発が行われたり、生駒山西麓部においては古墳前期から古墳文化が昇華しており、特に古墳時代の後半期には「高安千塚古墳」に代表される数多くの墳墓が築造されています。さらに、奈良後期には市域南部の弓削郷に「西の京」が設けられるなど、難波と大和を結ぶ大陸文化の中継地としての役割を果たしてきました。

このように、本市には貴重な文化遺産が数多く遺存しており、これらの文化財を開発による破壊から守り、後世に永く伝承させることが我々の大きな責務と認識し、昭和39年に市民憲章に「文化財を大切にしましょう」の条文を設けて文化財の保護・保存の徹底をはかってきたところであります。

今回、平成6年度に当調査研究会が実施しました木の本遺跡（第6次）、久宝寺遺跡（第19次）、小阪合遺跡（第27次）、志紀遺跡（第2次）、東弓削遺跡（第8次）、美園遺跡（第3次）、八尾南遺跡（第20次）の発掘調査の整理が完了しましたので、これをまとめ報告書として刊行することになりました。

本書が学術研究の資料として、また、文化財保護への関心と理解を深める上で広く活用されることを願うものであります。

最後になりましたが、これらの発掘調査に対して御協力いただきました関係機関の皆様に対して心から厚く御礼申し上げます。

平成8年3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 木山丈司

序

1. 本書は財團法人八尾市文化財調査研究会が平成6年度に実施した発掘調査の成果報告を収録したもので、内業整理及び本書作成の業務は各現地調査終了後に着手し、平成7年11月をもって終了した。
1. 本書に収録した報告は、下記のとおりである。
 1. 本書に収録した各調査報告の文責は、IV・VI・VIIが高萩千秋、I・Vが西村公助、IIが坪田真一、IIIが中野篤史（現 田尻町教育委員会）で全体の構成・編集は原田昌則が行った。
 1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1（昭和61年8月）・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』（平成5年10月1日改定）をもとに作成した。
 1. 本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面である。
 1. 本書で用いた方位は磁北及び国十庫標の真北を示している。
 1. 遺構は下記の略号で示した。
堅穴住居-S I 挖立柱建物-S B 井戸-S E 土坑-S K 溝-S D 小穴-S P
落ち込み-S O 土器集積-S W 自然河川-N R
 1. 遺物実測図は、断面の表示によって下記のように分類した。
弥生土器・土師器・瓦器・埴輪・白、須恵器・陶磁器・黒、石製品・石製品・斜線
 1. 各調査に際しては、写真・実測図のほかにカラースライドも多数作成している。市民の方々に広く利用されることを希望する。

目 次

はしがき

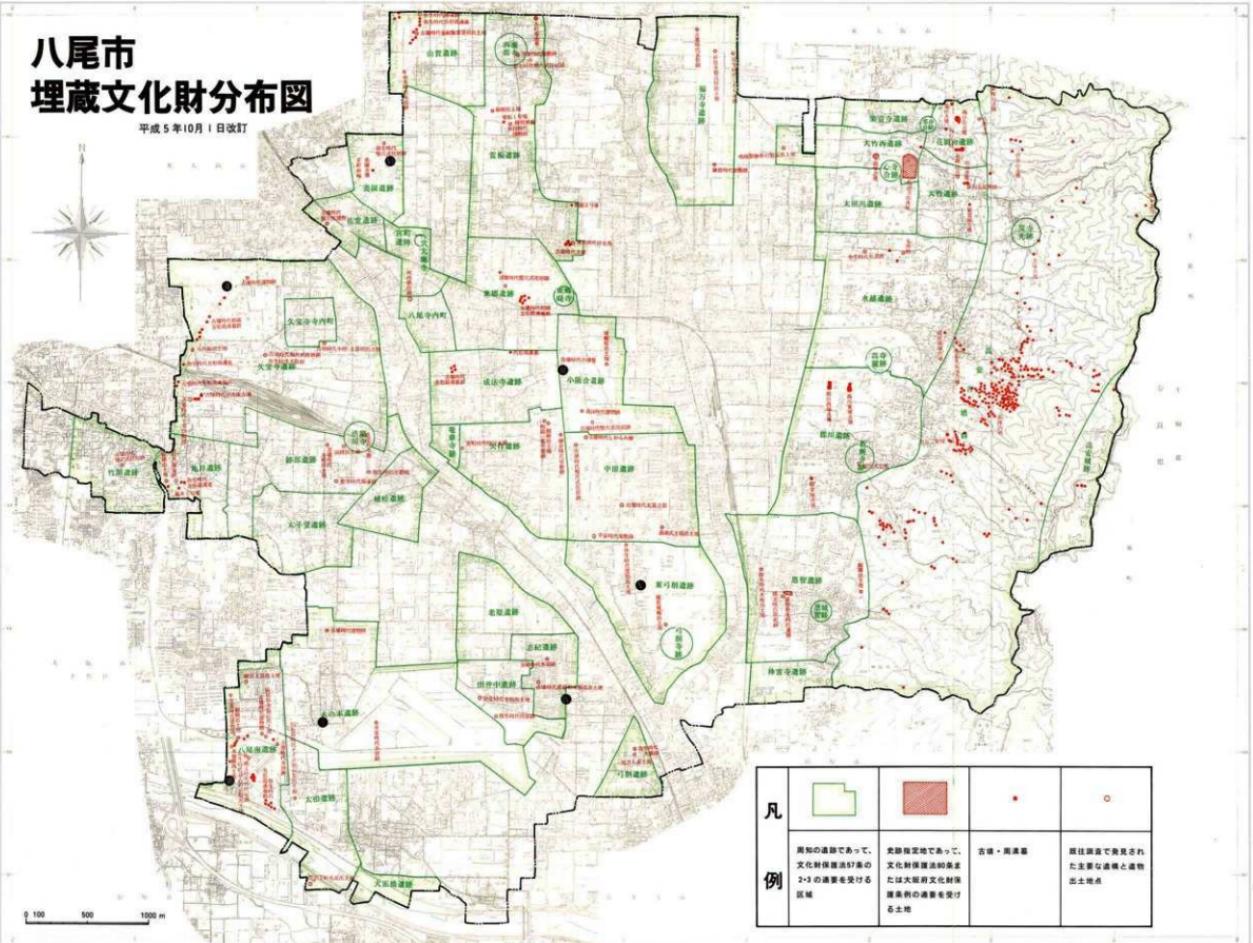
序

八尾市埋蔵文化財分布

I 木の本遺跡 第6次調査 (SK94-6)	1
II 久宝寺遺跡 第19次調査 (KH94-19)	13
III 小阪合遺跡 第27次調査 (KS94-27)	17
IV 志紀遺跡 第2次調査 (SIK94-2)	25
V 東弓削遺跡 第8次調査 (HY94-8)	31
VI 美園遺跡 第3次調査 (MS94-3)	37
VII 八尾南遺跡 第20次調査 (YS94-20)	43

八尾市 埋蔵文化財分布図

平成5年10月1日改訂



I 木の本遺跡第6次調査 (SK94-6)

木の本遺跡第6次調査は、1994年7月1日～7月15日、奈良県立橿原考古学研究所所長の佐々木和也博士の指揮下で実施された。調査は、木の本遺跡の南側に位置する、既存の発掘区画（SK94-1）の北側に隣接する区域（約1ha）を対象とした。この区域には、既存の発掘区画（SK94-1）と同様、古墳時代の土器や石器などの遺物が出土している。また、この区域には、既存の発掘区画（SK94-1）と同様、古墳時代の土器や石器などの遺物が出土している。

木の本遺跡第6次調査

例　　言

1. 本書は大阪府八尾市南木の本7丁目208～233及び木の本3丁目1～空港2丁目で実施した電話地下設備工事に伴う発掘調査である。
1. 本書で報告する木の本遺跡第6次調査（SK94-6）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第埋562-3号 平成6年12月20日）に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が日本電信電話株式会社から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成7年3月3日から7月11日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積は71m²を測る。なお、調査においては中西明美、西村和子が参加した。
1. 本書に関わる業務は、図面レイアウト トレースー中西、西村（和）、西村（公）が行った。
1. 本書の執筆、編集は西村（公）が行った。

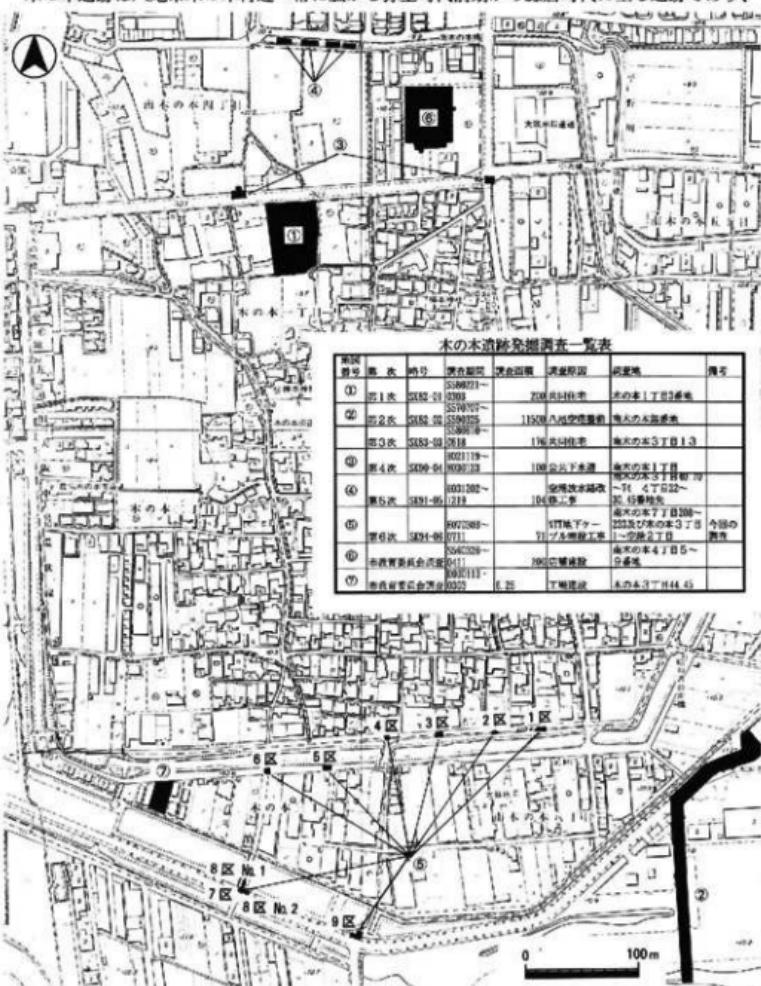
目　　次

1.はじめに.....	1
2. 調査概要.....	3
3.まとめ.....	8

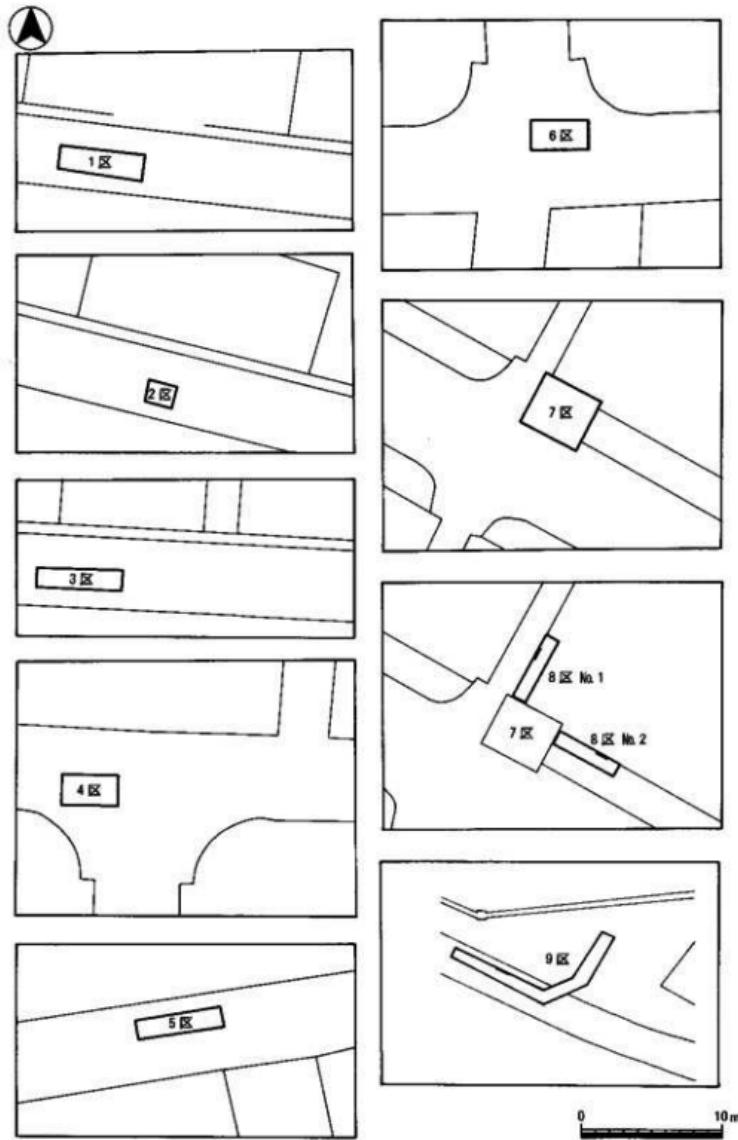
I 木の本遺跡第6次調査 (SK94-6)

1. はじめに

木の本遺跡は八尾市木の本付近一帯に広がる弥生時代前期から鎌倉時代に至る遺跡であり、



第1図 調査地周辺図



第2図 調査位置図

当遺跡は、河内平野の中を北西方向に流れる平野川の南の沖積地上に位置している。当遺跡周辺には、西に旧石器時代～近世に至る集落を検出している八尾南遺跡、東に弥生時代の集落を検出している田井中遺跡、北に奈良時代の集落を検出している太子堂遺跡が存在している。

木の本遺跡内では、昭和55年度に市教育委員会が南木の本4丁目5～9で調査を行っており、弥生時代中期から古墳時代中期に至る遺構の検出および遺物の出土があった。また、当調査研究会では同遺跡内で現在までに5件の調査を実施している。また平成3年度には、市教育委員会が、木の本3丁目44・45で実施しており、古墳時代後期の遺構を検出している。今回の調査地は上記市教育委員会平成3年度調査地の西側約50～200m付近にある。

2. 調査概要

今回の調査は、電話地下設備工事予定地の9箇所（1区～9区）である。調査にあたっては、現地表下1.4mまでの上層を機械掘削で排除し、以下0.2mまでは人力掘削を実施した。また、各調査区の人力掘削終了後、工事掘削最終深度まで土層の堆積状況の確認を行なった。

1区

1) 層序

第0層 盛土。層厚0.8m。上面の標高はT.P.+10.6mである。

第1層 灰色(N4/)粘土。層厚0.1～0.2m。旧耕土。

第2層 褐灰色(10YR4/1)粘土。層厚0.3m。

第3層 黄褐色(2.5Y5

/6)粘土。層厚

0.1～0.3m。

第4層 褐色(10YR4

/6)粘土。層厚

0.3～0.4m。

第5層 暗灰色(N3/)

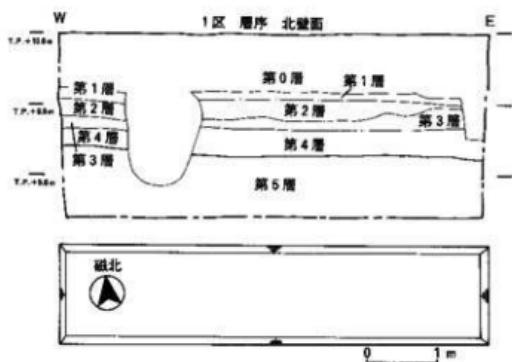
粘土。層厚1.0

m以上。

2) 検出遺構・出土遺物

第5層上面で調査を行っ

たが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。



第3図 1区 平断面図

2区

1) 層序

第0層 盛土。層厚1.3m。上面の標高はT.P.+10.7mである。

第1層 灰色(N4/)粘土。層厚0.4m。

第2層 灰色(N5/)シルト質粘土。層厚0.4m。

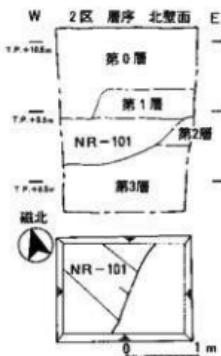
第3層 暗灰色(N3/)粘土。層厚1.0m以上。

2) 検出遺構・出土遺物

現地表下1.3m(標高T.P.+9.4m)前後に存在する第2層上面で自然河川(NR-101)を1条検出した。

NR-101

南西から北東方向に伸びる河川で、検出した河川は東肩のみで、幅は不明である。検出した深さは0.7mを測る。埋土は褐色(10YR4/6)細砂である。河川内からの遺物の出土はなかった。



第4図 2区 平断面図

3区

1) 層序

第0層 盛土。層厚0.8m。上面の標高はT.P.+10.8mである。

第1層 灰色(N4/)粘土。層厚0.1~0.2m。旧耕土。

第2層 褐灰色(10YR4/1)上。層厚0.2m。

第3層 黄褐色(2.5Y5/6)粘土。層厚0.2m。

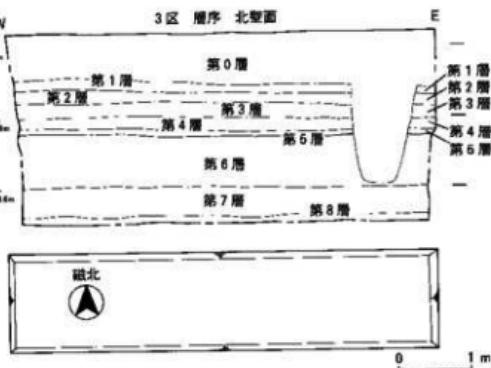
第4層 黄褐色(2.5Y5/6)細砂混粘土。層厚0.2m。

第5層 褐色(10YR4/6)粘土。層厚0.1m。

第6層 褐色(10YR4/6)シルト混粘土。層厚0.7~0.8m。

第7層 灰色(N4/)細砂。層厚0.4m。

第8層 暗灰色(N3/)粘土。層厚0.1m以上。



第5図 3区 平断面図

2) 検出遺構・出土遺物

第6層上面で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。

4区

1) 層序

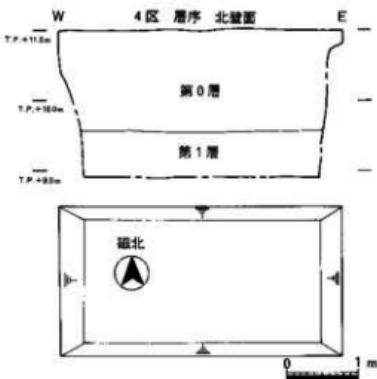
第0層 盛土。層厚1.4m。上面の標高はT.P.+11.0mである。

第1層 褐色(10YR4/6)細砂。層厚0.7m以上。

2) 検出遺構・出土遺物

第1層上面で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第1層は近世以前の河川の埋土と推定される。



第6図 4区 平断面図

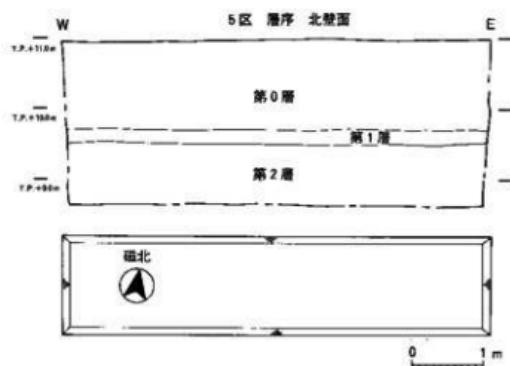
5区

1) 層序

第0層 盛土。層厚1.3m。上面の標高はT.P.+11.0mである。

第1層 灰色(N4/4)粘土。層厚0.2m。旧耕土。

第2層 褐色(10YR4/6)細砂。層厚0.7m以上。



第7図 5区 平断面図

2) 検出遺構・出土遺物

第2層上面で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。

第2層は近世以前の河川の埋土と推定される。

6区

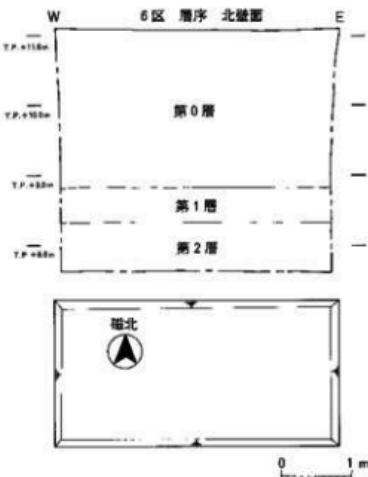
1) 層序

第0層 盛土。層厚2.3m。上面の標高はT.P.+11.1mである。

第1層 灰色(N4/)粘土。層厚0.5m。
第2層 暗青灰色(5B3/1)細砂。層厚0.7m以上。

2) 検出遺構・出土遺物

第1層上面で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。



第8図 6区 平断面図

7区

1) 層序

第0層 盛土。層厚0.6m。上面の標高はT.P.+11.0mである。

第1層 棕褐色(10YR4/6)シルト混粘土。層厚0.6m。
第2層 灰色(N6/)粘土。層厚0.2m。

第3層 暗灰色(N3/)粘土。層厚0.5m。

第4層 灰色(N4/)シルト混粘土。層厚0.7m。

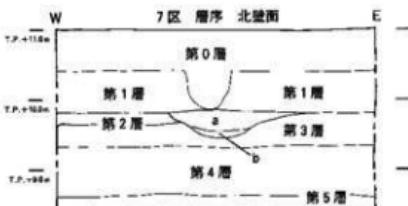
第5層 暗灰色(N3/)シルト混粘土。層厚0.2m以上。

2) 検出遺構・出土遺物

第3層上面で調査を行ない、溝1条(SD-101)検出した。

SD-101

調査地の中央で検出した。南北方向に伸びるもので幅2.0m、深さ0.3mを測る。埋土はa灰色(5Y4/1)細砂、b暗灰色(N3/)シルトで、内部からの出土遺



第9図 7区 平断面図

物はなかった。

8区のNo.1・No.2

1) 層序

第0層 盛土。層厚0.6m。上面の標高はT.P.+11.0mである。

第1層 褐色(10YR4/6)シルト混粘土。層厚0.6m。

第2層 灰色(N6/)粘土。層厚0.2m。

第3層 暗灰色(N3/)粘土。層厚0.3m。

第4層 灰色(N4/)シルト混粘土。層厚0.3m以上。

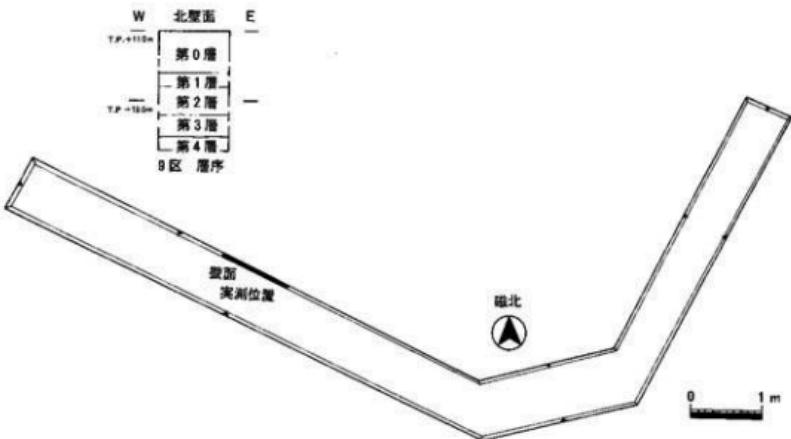
2) 檜山遺構・出土遺物

第3層上面で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。



第10図 8区No.1 No.2 平断面図

9区



第11図 9区 平断面図

1) 層序

第0層 盛土。層厚0.6m。上面の標高はT.P.+11.0mである。

第1層 緑灰色（5G5/1）粘土。層厚0.2m。

第2層 褐色（10YR4/4）細砂。層厚0.4m。

第3層 灰色（N4/）粘土。層厚0.3m。

第4層 暗灰色（N3/）粘土。層厚0.2m以上。

2) 検出遺構・出土遺物

第4層上面で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。

3.まとめ

今回の調査地では遺物の山上がなく、時期を決定できる遺構の検出もなかった。しかし、7区の第3層や9区の第4層は、木の本遺跡第2次調査〔八尾空港整備事業に伴う発掘調査〕^{註1}第3調査区の堆積土層に似ており、場所的にも近接していることから、古代木の水田の十層の可能性が考えられる。

また、4区の第1層（細砂）は厚さ0.7m以上、幅4m以上、5区の第2層（細砂）は、厚さ0.7m以上、幅6m以上にわたり検出しており、この砂層は近世以前の河川の堆積土と推定される。しかし流れの方向や河川の幅や深さ等の詳細は不明である。

今回の調査地では平成3年度市教育委員会調査（第1図の⑦）^{註2}で検出している古墳時代の後期の集落の検出はなかった。

註1 「木の本遺跡」－八尾空港整備事業に伴う発掘調査－ 1984年 財团法人八尾市文化財調査研究会 報告4

註2 八尾市文化財調査報告27 平成4年度国庫補助事業「八尾市内遺跡平成4年度発掘調査報告書I」 1993. 3 八尾市教育委員会調査

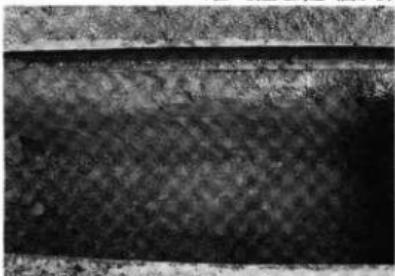
I 木の本遺跡第6次調査 (SK94-6)



1区 調査地周辺（西から）



1区 全景（東から）



1区 北壁面（南から）



1区 調査状況（東から）



2区 全景（西から）



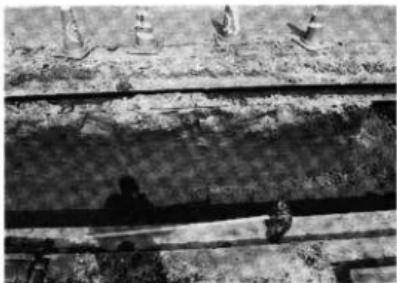
2区 北壁面（南から）



2区 調査状況（南から）



3区 全景（東から）



3区 北壁面（南から）



3区 調査状況（東から）



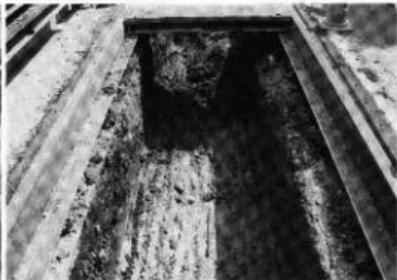
4区 全景（東から）



4区 北壁面（南から）



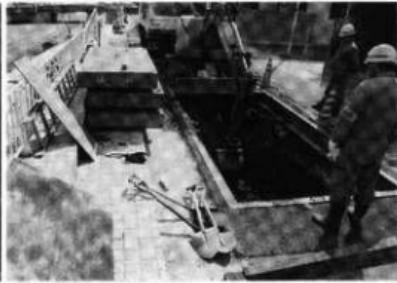
4区 調査状況（東から）



5区 全景（西から）

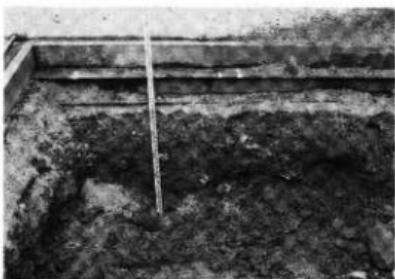


5区 北壁面（南から）



5区 調査状況（西から）

1 木の本遺跡第6次調査 (SK94-6)



6区 北壁面（南から）



6区 調査状況（西から）



7区 北壁面（南から）



7区・8区 調査状況（南東から）



8区 №1 全景（北から）



8区 №2 全景（東から）



9区 北壁面（南から）



9区 調査状況（東から）



II 久宝寺遺跡第19次調査（KH94-19）

例 言

1. 本書は、大阪府八尾市西久宝寺地内で実施した公共下水道工事（平成6年度第10工区）に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本書で報告する久宝寺遺跡第19次調査（KH94-19）の発掘調査の業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第埋353-3号 平成6年9月22日）に基づき、財團法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託をうけて実施したものである。
1. 現地調査は、平成7年1月13日から2月27日にかけて、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は25.92m²を測る。なお調査においては大見康裕・浜田千年・山内千恵子が参加した。
1. 本書の執筆・写真撮影及び編集は坪田が行った。

本 文 目 次

1. はじめに.....	13
2. 調査概要.....	14
1) 調査方法.....	14
2) 基本層序と出土遺物.....	14
3. まとめ.....	15

II 久宝寺遺跡第19次調査 (KH94-19)

1. はじめに

久宝寺遺跡は八尾市の西端に位置し、現在の行政区画では、八尾市内の北久宝寺・久宝寺・西久宝寺・南久宝寺・神武町・龜井・北龜井町・渋川町がその範囲となっており、さらに大阪市・東大阪市に広がっている。今回の調査地は久宝寺遺跡の北西部端、八尾市と大阪市の境界部にあたる。なお大阪市域では加美遺跡として調査が行われているが、両遺跡は同一の遺跡として捉えられている。

地理的には旧大和川の主流である長瀬川の左岸にあたり、同地形上で南側に跡部遺跡・龜井遺跡・太子堂遺跡が存在する。

久宝寺遺跡では昭和48年度以降、大阪府教育委員会・岬大阪文化財センターによる近畿自動車道関連の調査(①)をはじめ、岬東大阪市文化財協会・八尾市教育委員会・当調査研究会により数次の発掘調査が実施されており、縄文時代晚期から近世にわたる遺跡であることが確認されている。今回の調査地周辺での既往の調査をみると、北約240m地点で岬東大阪市文化財協会による調査(②。以下、北部調査地)、東約350m地点で当調査研究会による第15次調査(③。以下、東部調査地)が実施されている。



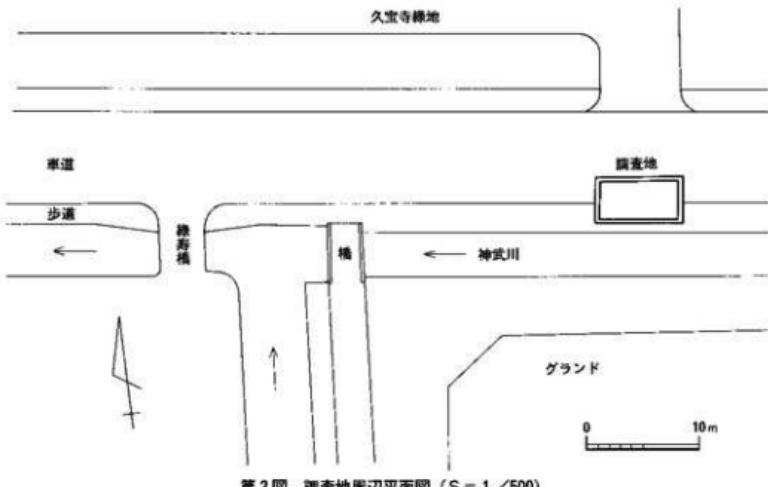
第1図 調査位置図 (S = 1/5000)

2. 調査概要

1) 調査方法

今回の調査は公共下水道工事の立坑部分の調査で、当調査研究会が久宝寺遺跡内で実施した第19次調査である。調査地の平面形は東西7.2m×南北3.6mの長方形を呈する。

調査は工事の掘削深度である現地表下約5.0mまでについてで、掘削は機械掘削を中心とし、随時人力掘削を併用して実施した。土質断面の観察のため北壁を残しながら掘削を行い、調査を進めた。



第2図 調査地周辺平面図 ($S = 1/500$)

2) 基本層序と出土遺物

第2層の旧耕土以下は、おおまかにみて40cm～50cmから80cmの層厚を測る砂層と粘土層の互層堆積となっており、各層中には植物遺体も多く含まれる。このことから長期間にわたって当地は河川域・沼沢地にあったことが窺える。

標高約4m～5mに堆積する第4層は厚い砂層で、西部では荒砂となっており、下部はかなり起伏がある。これは河川の氾濫を示すものと考えられ、東部調査地でも同様の状況で、砂層とシルトの互層が確認されている。この層からはかなり摩耗した古墳時代前期頃の上器片が出土している。第5層以下は灰色～暗褐色系粘土層と砂層の互層となっている。東部調査地では様相が異なり、標高約3.5m以下は灰色～灰黒色粘土の互層となっており、当地はこれに砂層が介在した状況と言える。なお第5層以下からは遺物は出土していない。第6層は植物遺体を

多量に含み、流木もかなりみられる。

北部調査地での層序と対比すると、第4層が古墳時代中期頃の遺構面、第9層が弥生時代中期の遺構面を形成する砂層に相当すると思われる。前者では土坑2基が、後者では高さ約80cmの盛土が遺存する方形周溝墓1基が検出されているが、当地まではこの集落域は拡がらないようである。また東部調査地では当該地が弥生時代では生産域で、古墳時代前期以降安定した土地条件をもった集落域になったことが指摘されている。

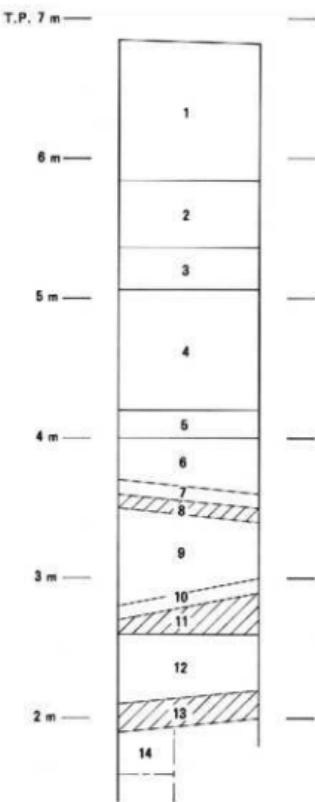
3.まとめ

今回の調査では、遺構及び遺物包含層は検出されなかつたが、土層堆積状況から、旧大和川による活発な冲積作用が確認できた。出土遺物は河川堆積の砂層からの古墳時代前期頃の土器片3点のみであった。これらはかなり摩耗しており、移動してきたものであろう。

東部調査地では弥生時代において水田が存在した可能性があるが、当調査地ではそのような状況は認められなかった。当地の土地条件が安定し集落域となるのは、東部調査地と同様、古墳時代前期以降と思われる。

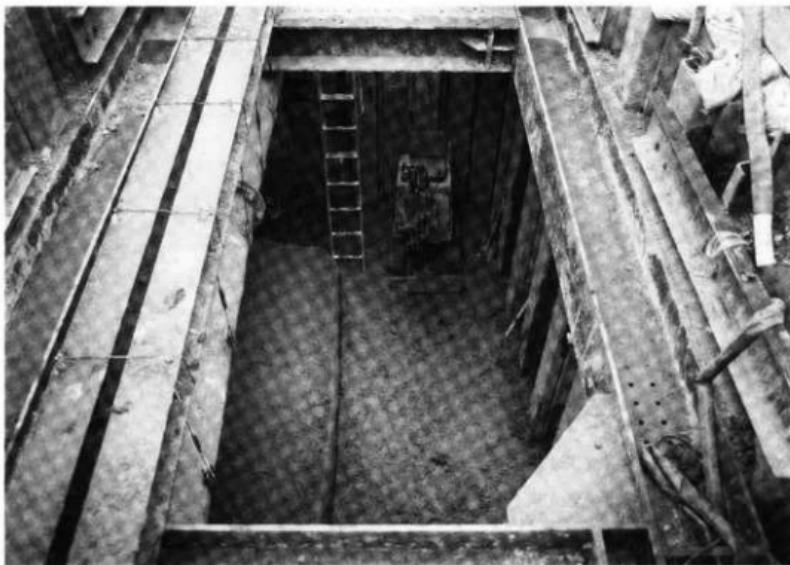
参考文献

- ・鶴東大阪市文化財協会「久宝寺遺跡発掘調査報告」
1986
 - ・八尾市文化財調査研究会「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告－X Ⅲ久宝寺遺跡第15次調査－」「八尾市文化財調査研究会報告39」1993
1. コンクリート及び盛土
 2. 青灰色粘質土 (旧耕土)
 3. 淡褐色粘質土
 4. 明灰黄色細砂～粗砂
 5. 上層と淡褐色粘質シルトとの互層 (植物遺体含む)
 6. 暗灰褐色粘土 (流木等の植物遺体を多量含む)
 7. 暗灰色粘土
 8. 暗褐色微砂混じり粘土
 9. 暗灰黄色細砂～粗砂 (やや緑まる)
 10. 灰褐色粘土 (植物遺体を含む)
 11. 暗褐色粘土
 12. 灰黃色細砂～灰褐色砂・シルトとの互層
 13. 暗褐色粘土
 14. 暗灰青色粘土



赤斜線は暗褐色系粘土

第3図 基本層序 (S = 1/40)



調査地全景（西から）



北壁断面（第12～13層）

III 小阪合遺跡第27次調査 (KS94-27)

第三回文書

例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市青山町2丁目地内で実施した公共下水道工事（平成6年度 第25工区工事）に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本調査で報告する小阪合遺跡第27次調査（KS94-27）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第19号 平成6年4月5日）に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市より委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、平成6年5月9日～5月20日にかけて、中野篤史を調査担当者として実施した。調査面積は約36m²である。発掘調査、遺物整理には、市森千恵子、西岡千恵子、興儀徳保が参加した。
1. 本書の執筆、編集は中野が行った。

本文目次

1. はじめに.....	17
2. 調査概要.....	19
1) 調査の方法と経過.....	19
2) 基本層序.....	19
3) 検出遺構と出土遺物.....	19
3. まとめ.....	21

III 小阪合遺跡第27次調査 (KS94-27)

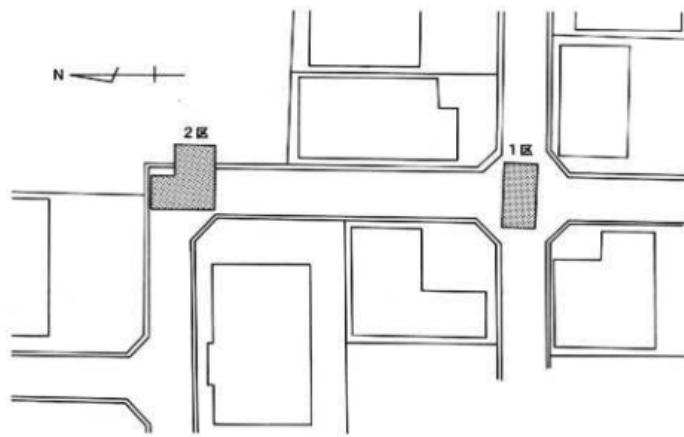
1. はじめに

小阪合遺跡は、八尾市の中心部に位置する。現行の行政区画の若草町、小阪合町1・2丁目、南小阪合町2・4丁目、青山町1～5丁目、山本町南7・8丁目がその範囲にある。地理的には、旧大和川の主流である長瀬川と玉串川によって形成された沖積地上で、現標高8～9mに位置しており、当遺跡の東を玉串川が北流している。当遺跡の周辺には、西に成法寺遺跡、北西に東郷遺跡、南西に矢作遺跡、南に中田遺跡がある。

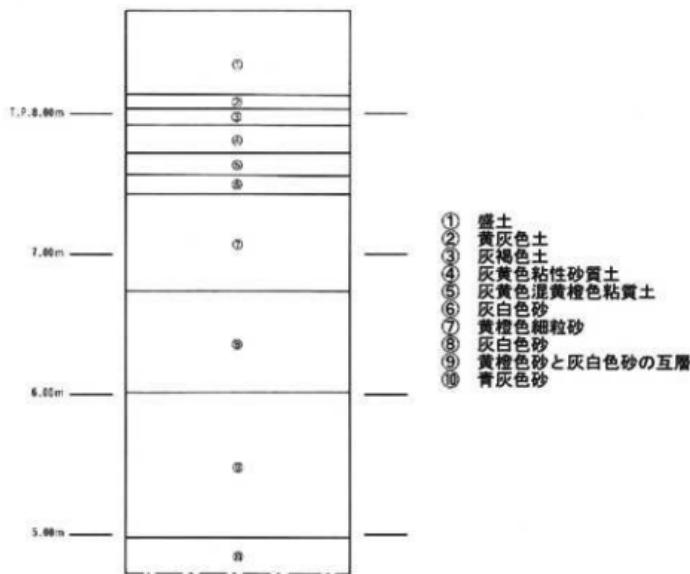
当遺跡の発見の経緯は、昭和30年の大阪府営住宅建設工事中に古墳時代の遺物が多量に出土したことによる。その後、八尾市教育委員会によって、試掘調査、立会調査が行なわれたが、明確な遺構等は確認されなかった。昭和56年から当地域の区画整理事業が行なわれることとな



第1図 調査地位位置図及び周辺図



第2図 調査区設定図 ($S = 1/500$)



第3図 層序模式図 ($S = 1/40$)

り、昭和57年以降上地区画整理事業等に伴う発掘調査が、大阪府教育委員会、八尾市教育委員会、財団法人八尾市文化財調査研究会（以下、「当調査研究会」とする）により実施され、これらの調査成果から、当遺跡は弥生時代から近世に至る複合遺跡であることが判明している。

2. 調査概要

1) 調査の方法と経過

本調査は、公共下水道（平成6年度第25工区）工事による2ヶ所の立坑掘削に伴うもので、当調査研究会が小阪合遺跡内で行った第27次調査にあたる。調査区は、南側の立坑を1区、北側の立坑を2区と呼称した。各調査区の面積は、1区が約13m²、2区が約23m²である（第2図）。

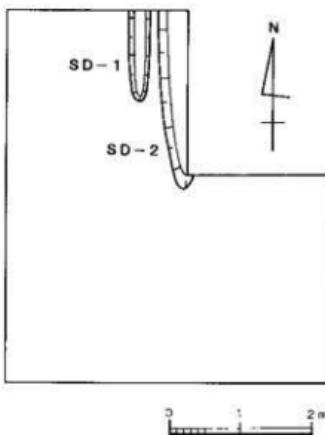
調査は、現地表下約0.7～0.8mを機械掘削し、その下を機械・人力を併用して層理に従って掘り下げ、遺構・遺物の検出に努めた。また、工事掘削深度の及ぶ範囲について立会い、土層の堆積状況の確認を行った。

調査の結果、1区は調査区のほとんどが埋設管工事等により砂層直上まで擾乱されており、明確な遺構は検出されなかった。2区は第5層上面で中世から近世の耕作に伴う南北方向のスキ溝と思われる溝2条を検出した。

2) 基本層序

今回の調査地では第3図に図示した10層が第1区・第2区の基本層序である。第1層は近・現代の盛土である。層厚は、およそ60cmを測る。

第2層は黄灰色土で層厚約10cmを測る旧耕土である。第3層は灰褐色土で層厚約10cm、第4層は灰黄色粘性砂質土で、層厚約20cmを測る。第3・4層は古墳時代～近世の遺物を含む中世から近世の耕作土と考えられる。第5層は灰黄色混黄橙色粘質土で、層厚15cmを測る。この層は中世から近世にかけての耕作面のベース層であり、2区においてこの上面で遺構を検出している。第6層から下層は砂層の堆積が掘削深度まで続いている。この砂層の上層中から弥生時代後期～古墳時代前期の土器片が少量出土している。



第4図 2区遺構平面図

3) 検出遺構と出土遺物

・検出遺構

溝 (SD)

2mにおいて、第5層上面で溝2条を検出した。

SD-1

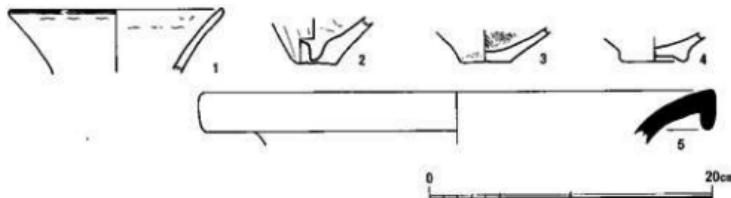
調査区の北東部で検出した南北方向に伸びる遺構である。その規模は、検出長1.3m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。埋土は、砂混褐色粘質土である。断面形状は、浅い皿状を呈する。遺物は、出土していない。

SD-2

調査区の北東部で検出した南北方向に伸びる遺構である。その規模は、検出長2.5m、深さ0.1mを測る。幅は調査区外に至るため不明である。遺物は、出土していない。

4) 遺構に伴わない出土遺物

第3・4・6層内でごく少量出土した。第6層では弥生時代後期～古墳時代前期の遺物を出土した。図示できたものは壺(1)の口縁部片・甕(2～4)の底部片である。第4層では古墳時代～近世の遺物を出土した。図示できたものは古墳時代後期の須恵器甕(5)の口縁部片である。



第5図 遺構に伴わない出土遺物実測図

出土遺物観察表

遺構 番号	器種	注量 (cm)	形態・特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 (赤土・土器)	壺	1径 15.0	口縁部外表面磨耗の為、調整不明、内面ハケナダ・接合部。	乳褐色	3mm以上の砂粒を含む(赤褐色化粧・赤母・長石)	良好	
2 (赤土・土器)	甕	底径 3.0	内外面ハラナデ。	乳褐色	2mm以下の砂粒を多量に含む(石英・赤母・長石)	良好	糊面有り
3 (赤土・土器)	甕	底径 3.4	外表面磨耗の為、調整不明、内面ハケナダ。	乳褐色	3mm以下の砂粒を多量に含む(赤褐色化粧・赤母・長石)	良好	
4 (赤土・土器)	甕	底径 4.2	内外面磨耗の為、調整不明。	乳褐色	3mm以下の砂粒を多量に含む(赤母・長石)	良好	
5 (須恵器)	甕	口径 36.0	内外面凹凸ナデ。	暗灰青色	5mm以下の砂粒を含む。	良好	

3.まとめ

今回の調査では、中世から近世の耕作に伴うスキ溝と思われる遺構及び弥生時代後期から近世の遺物を検出した。出土した遺物の量はコンテナ1箱程である。第6層以下から出土した遺物はどれも摩滅していて、砂とともに流されてきたものと思われる。第6層以下の砂層の堆積状況からみると、河川であったものと思われる。この河川は明確な時期は不明であるが奈良時代前後に川としての機能を失い埋没し、中世頃に耕地化されたものと思われる。

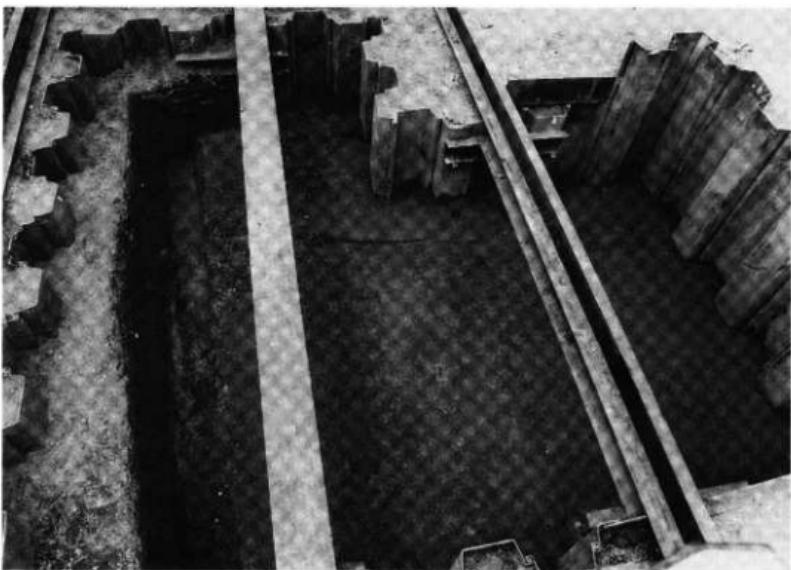
参考文献

- ・「5小阪合遺跡 第2次調査・第3次調査」『昭和58年度事業概要報告』鶴八尾市文化財調査研究会報告5 1984
- ・「II埋蔵文化財の発掘調査 4小阪合遺跡(第4次調査)・5小阪合遺跡(第5次調査)」『昭和59年度事業概要報告』鶴八尾市文化財調査研究会報告7 1985
- ・「小阪合発掘調査概要」流域下水道等整備に伴う発掘調査-鶴八尾市文化財調査研究会報告8 1986年
- ・「II埋蔵文化財の発掘調査 4小阪合遺跡(第6次調査)」『昭和60年度事業概要報告』鶴八尾市文化財調査研究会報告9 1986. 4
- ・「小阪合遺跡」-八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査-『昭和57年度 第1次調査』鶴八尾市文化財調査研究会報告10 1987
- ・「小阪合遺跡」-八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査-『昭和58年度 第2次調査・第3次調査』鶴八尾市文化財調査研究会報告11 1987
- ・「II埋蔵文化財の発掘調査 2小阪合遺跡(第7次調査)・3小阪合遺跡(第8次調査)」『昭和61年度事業概要報告』鶴八尾市文化財調査研究会報告14 1987. 12
- ・「小阪合遺跡」-八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査-『昭和59年度 第4次調査報告書』鶴八尾市文化財調査研究会報告15 1988
- ・「II埋蔵文化財の発掘調査 1小阪合遺跡(第1次調査)・2小阪合遺跡(第10次調査)・3小阪合遺跡(第11次調査)・4小阪合遺跡(第12次調査)・5小阪合遺跡(第13次調査)・6小阪合遺跡(第14次調査)』『八尾市文化財調査研究会年報 昭和62年度』鶴八尾市文化財調査研究会報告16 1988
- ・「小阪合遺跡」-八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査-『昭和60年度 第6次調査報告書』鶴八尾市文化財調査研究会報告18 1989
- ・「II埋蔵文化財の発掘調査 7小阪合遺跡(第15次調査)・8小阪合遺跡(第16次調査)」『八尾市文化財調査研究会年報 昭和63年度』鶴八尾市文化財調査研究会報告25 1989
- ・「小阪合遺跡」-八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査-『昭和61年度第8次昭和62年度第10・13次 昭和63年度第16次調査報告』鶴八尾市文化財調査研究会報告26 1990
- ・「II埋蔵文化財の発掘調査 1小阪合遺跡(第18次調査)」『八尾市文化財調査研究会年報 平成元年度』鶴八尾市文化財調査研究会報告28 1990
- ・「IV小阪合遺跡(第22次調査)」・V小阪合遺跡(第23次調査)・VI小阪合遺跡(第24次調査)『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』鶴八尾市文化財調査研究会報告39 1993

- ・「Ⅱ小阪合遺跡（第19次調査）」「Ⅲ小阪合遺跡（第20次調査）」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ」(4)
八尾市文化財調査研究会報告41 1993
- ・「Ⅳ小阪合遺跡（第25次調査）」「財団法人八尾市文化財調査研究会報告42」1994
- ・「平成2年度 勧八尾市文化財調査研究会事業報告」1991
- ・「Ⅱ埋蔵文化財の発掘調査 3. 小阪合遺跡第20次調査・4. 小阪合遺跡第21次調査」「平成3年度
勧八尾市文化財調査研究会事業報告」1992
- ・「Ⅱ埋蔵文化財の発掘調査 13. 小阪合遺跡第22次調査・14. 小阪合遺跡第23次調査、15. 小阪合遺跡
第24次調査」「平成4年度 勧八尾市文化財調査研究会事業報告」1993
- ・「Ⅱ埋蔵文化財発掘調査成果 13. 小阪合遺跡第25次調査・14. 小阪合遺跡第26次調査『平成5年度
勧八尾市文化財調査研究会事業報告』1994
- ・八尾市文化財調査報告11 昭和59年度国庫補助事業「6. 小阪合遺跡の調査」八尾市教育委員会「八尾
市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書」1985. 3
- ・八尾市文化財調査報告18「小阪合遺跡発掘調査概要」「八尾市内遺跡昭和62年度発掘調査報告書Ⅱ」八尾
市教育委員会 1988. 3
- ・「22. 小阪合遺跡（63-454）の調査」「八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市文化財調査
報告19 昭和63年度国庫補助事業 1989. 3
- ・「12. 小阪合遺跡（89-255）の調査」「八尾市内遺跡平成元年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市文化財調査
報告20 平成元年度国庫補助事業 1990. 3
- ・八尾市文化財調査報告27 平成4年度国庫補助事業「6. 小阪合遺跡（92-067）の調査」「八尾市内遺
跡平成4年度発掘調査報告書Ⅰ」1993. 3
- ・「小阪合遺跡発掘調査概要・Ⅱ」－八尾市南小阪合町所在－大阪府教育委員会1989. 3



1区全景（西から）



2区全景（西から）



IV 志紀遺跡第2次調査(SIK94-2)

例　　言

1. 本書は、大阪府八尾市志紀西2丁目地内で実施した、公共下水道工事（平成6年度 第28工区）に伴う志紀遺跡第2次発掘調査報告書である。
1. 本書で報告する志紀遺跡第2次調査（SIK94-2）の発掘調査の業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第545-3号 平成6年12月13日）に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市より委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は、中野篤史を担当者として、平成7年3月22日に着手し、同年5月20日に終了した。調査面積は約22m²である。
1. 発掘調査、整理には、赤澤茂美、市森千恵子、佐藤哲也、八田雅美の協力を得た、記して感謝の意を表す。
1. 調査にあたっては、財団法人大阪府埋蔵文化財協会（現 大阪府文化財調査研究センター）秋山浩三氏、地村邦夫氏より多大なご教示を賜った。記して感謝の意を表す。
1. 本書の執筆、編集は中野が行った。

本　文　目　次

1. はじめに.....	25
2. 調査概要.....	26
1) 調査の方法と経過.....	26
2) 基本層序.....	27
3. まとめ.....	29

IV 志紀遺跡第2次調査 (SIK94-2)

1. はじめに

八尾市は、東を生駒金剛山地、南を羽曳野丘陵、西を上町台地に囲まれた河内平野の中央部に位置する。本市域の南東部に位置する志紀遺跡は羽曳野丘陵からの洪積段丘に挟まれた谷状の低地に立地している。

本遺跡の周辺には、東方には長瀬川を挟んで位置する東弓削遺跡、弓削遺跡、南方には田井



第1図 調査地周辺図

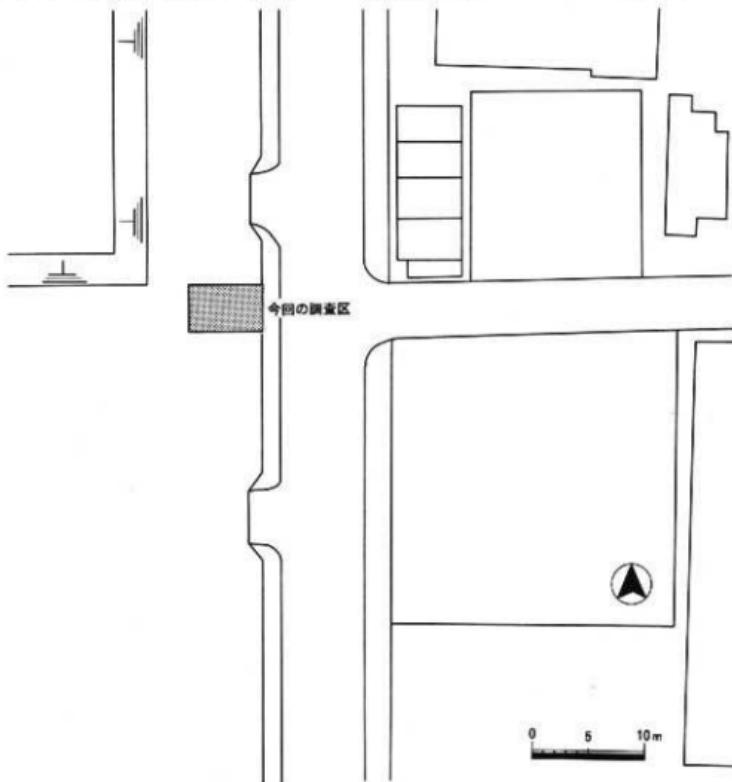
中遺跡、木の本遺跡、西方の洪積段丘上には八尾南遺跡、長原遺跡、北方には老原遺跡と長瀬川を挟んで位置する矢作遺跡、中田遺跡等がある。

2. 調査概要

1) 調査の方法と経過

今回の調査は、公共下水道（平成6年度 第28工区）に伴うもので、当調査研究会が志紀遺跡内で行った第2次調査である（一部は田井中遺跡として、調査を実施している）。調査面積は、工事部分を対象に約22m²である。

本調査地は、近隣の調査によって、弥生時代中期から現代までの耕作遺構面が確認されており、それら遺構面が存在すると想定されたが、小規模な面積であるため主に土層の観察によっ



第2図 調査位置図

てそれらの遺構面を確認する方法をとった。

調査は、現地表下約3mまで機械掘削を行い、以下約1mを人力と機械を併用して掘削を行った。また、工事掘削最終深度まで立ち会い、土層の堆積状況の確認を実施した。

2) 基本層序

今回の調査では、遺物の出土ではなく、畦畔等は検出されなかったが、弥生時代後期から中世にかけての耕作遺構面と思われる堆積層を確認した。調査地は、現地表下約2mは攪乱されており近世から現代までの耕作面は確認できなかった。第2層以下第12層までと第14層以下第31層までは、本来の堆積土であるが、第13層については薬剤注入後の調査であるため、第13層が凝固していて、不明な部分である。

以下に土層の層序と周辺の調査成果による対応時期を記す。

第1層 搅乱層

第2層 旧耕作土 層厚20cm (周辺の調査成果により中世耕作土と思われる)

第3層 暗青灰色粘土 層厚15~20cm (11世紀頃と思われる)

第4層 暗青灰色細粒砂 層厚20cm

第5層 オリーブ灰色粘土 層厚40cm

第6層 暗青灰色粘土 層厚10~15cm (6世紀頃と思われる)

第7層 暗オリーブ灰色粘土 層厚15~20cm (5~6世紀頃と思われる)

第8層 青灰色粘土 層厚10cm

第9層 濡青灰色粘土 層厚15cm

第10層 暗青灰色粘土 層厚8cm

第11層 青灰色中粒砂 層厚5cm

第12層 楔灰色粘土 層厚20cm (弥生時代後期と思われる)

第13層 薬剤注入により凝固 青灰色細粒~中粒砂 層厚70cm

第14層 灰オリーブ色細粒砂 層厚20~35cm

第15層 黒褐色粘土 層厚10~20cm ブラックバンド

第16層 黒褐色粘土混暗灰色粘土 層厚12cm

第17層 黒褐色粘土 層厚30cm ブラックバンド

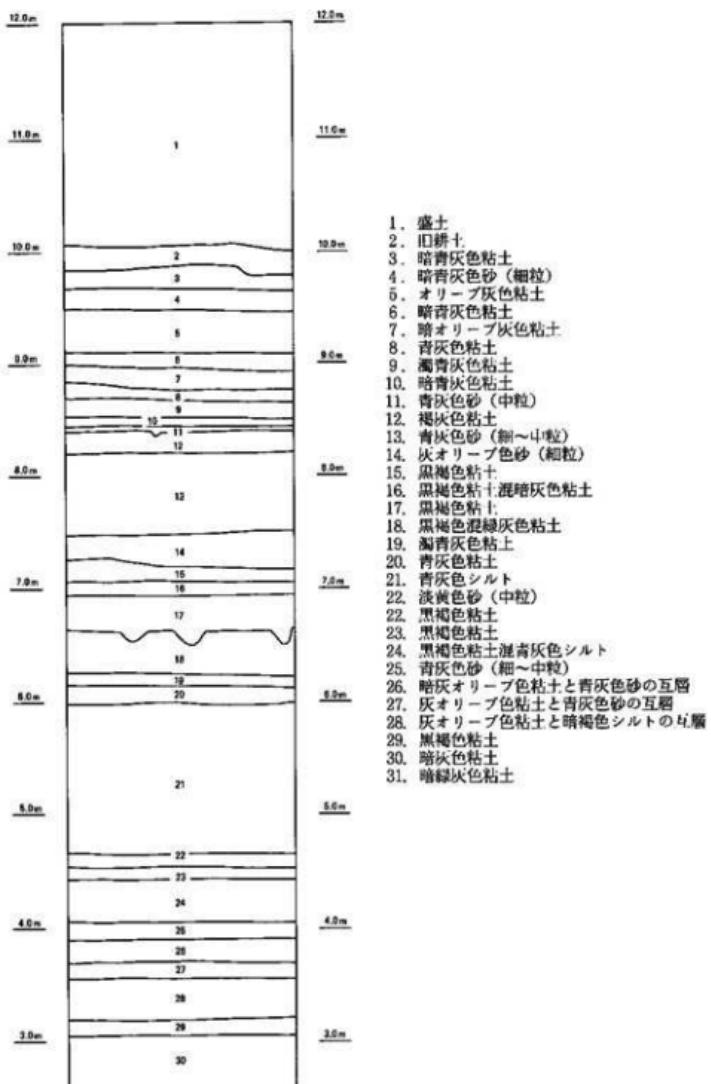
第18層 黒褐色混綠灰色粘土 層厚35~40cm (縄文時代後期以前と思われる)

第19層 濡青灰色粘土 層厚10cm

第20層 青灰色粘土 層厚15cm

第21層 青灰色シルト 層厚20cm

第22層 淡黄色中粒砂 層厚110cm (洪水層)



第3図 層序模式図 ($S = 1/50$)

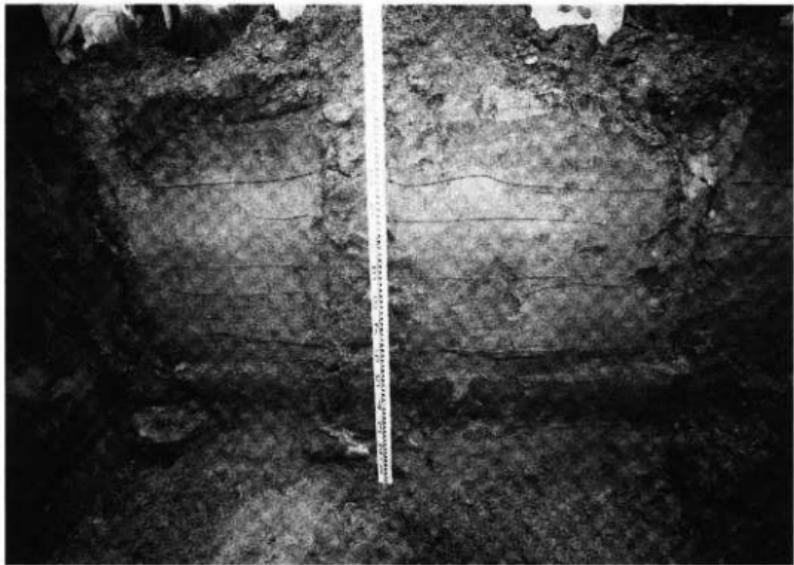
- 第23層 黒褐色粘土 層厚10cm ブラックバンド
- 第24層 黒褐色粘土混青灰色シルト 層厚10cm
- 第25層 青灰色細粒～中粒砂 層厚35cm
- 第26層 暗灰オリーブ色粘土と青灰色砂の互層 層厚15cm
- 第27層 灰オリーブ色粘土と青灰色砂の互層 層厚18cm
- 第28層 灰オリーブ色粘土と暗褐色シルトの互層 層厚15cm
- 第29層 黒褐色粘土 層厚35cm ブラックバンド
- 第30層 暗灰色粘土 層厚14cm
- 第31層 暗緑灰色粘土

3. まとめ

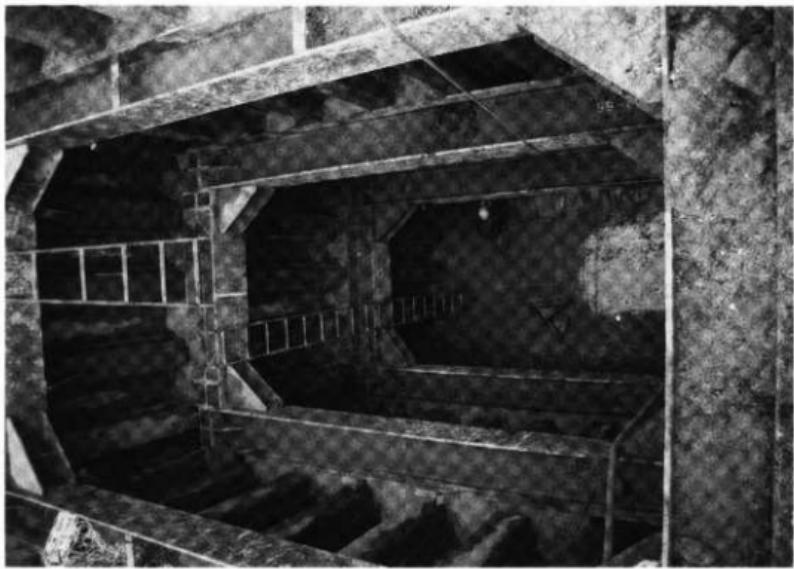
今回の調査では、弥生時代後期から中世にかけての耕作遺構面と思われる堆積層を確認した。また、現地表下約5.4mの第18層を掘り込む溝またはピット状の遺構が断面観察により確認できた。この層は、財団法人大阪府埋蔵文化財協会が、本遺跡地内で平成6年度に行った調査により確認された第17遺構面（縄文時代後期以前にさかのばる可能性がある）と本調査地点の層位的関係から、同一遺構面と思われ、木遺跡で、縄文時代後・晩期に人々が生活を営んでいた可能性があり、今後の周辺部における調査の進展を期したい。

参考文献

- ・『志紀遺跡発掘調査概要』1986年3月 大阪府教育委員会
- ・『八尾市志紀遺跡の水田遺構』『大阪府下埋蔵文化財研究会(第21回)資料』1990
- ・「I 田井中遺跡(志紀遺跡)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』1994年八尾市文化財調査研究会報告40
- ・「志紀遺跡(91-319)の調査」『八尾市内遺跡平成3年度発掘調査報告書』1992 八尾市文化財調査報告25 八尾市教育委員会
- ・『志紀遺跡発掘調査概要・II』1992.3 大阪府教育委員会
- ・『志紀遺跡発掘調査概要・III』1993.3 大阪府教育委員会
- ・「XIX 田井中遺跡(第9次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』1993年 八尾市文化財調査研究会報告39
- ・「VI 志紀遺跡(第1次調査)」『財團法人八尾市文化財調査研究会報告42』1994年



北壁断面状況（南から）



下層状況（西から）

V 東弓削遺跡第8次調査 (HY94-8)

例　　言

1. 本書は大阪府八尾市八尾木3丁目地内で実施した公共下水道（平成5年度第112工区）工事に伴う発掘調査である。
1. 本書で報告する東弓削遺跡第8次調査（HY94-8）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第138-3号平成6年8月12日）に基づき財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成6年10月3日から10月20日にかけて、西村公助を担当者として実施した。調査面積は40m²を測る。
1. 本書に関わる業務は、図面レイアウト トレースー中西明美、西村和子、西村（公）が行った。
1. 本書の執筆・編集は西村（公）が行った。

本 文 目 次

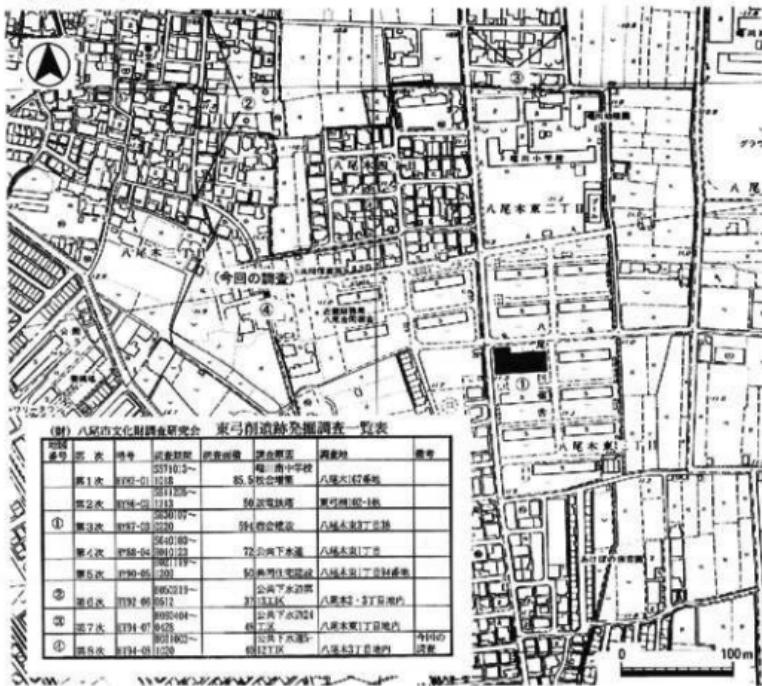
1.はじめに.....	31
2. 調査概要.....	33
1) 調査の方法と経過.....	33
2) 基本層序.....	33
3) 検出遺構と出土遺物.....	34
3.まとめ.....	34

V 東弓削遺跡第8次調査(HY94-8)

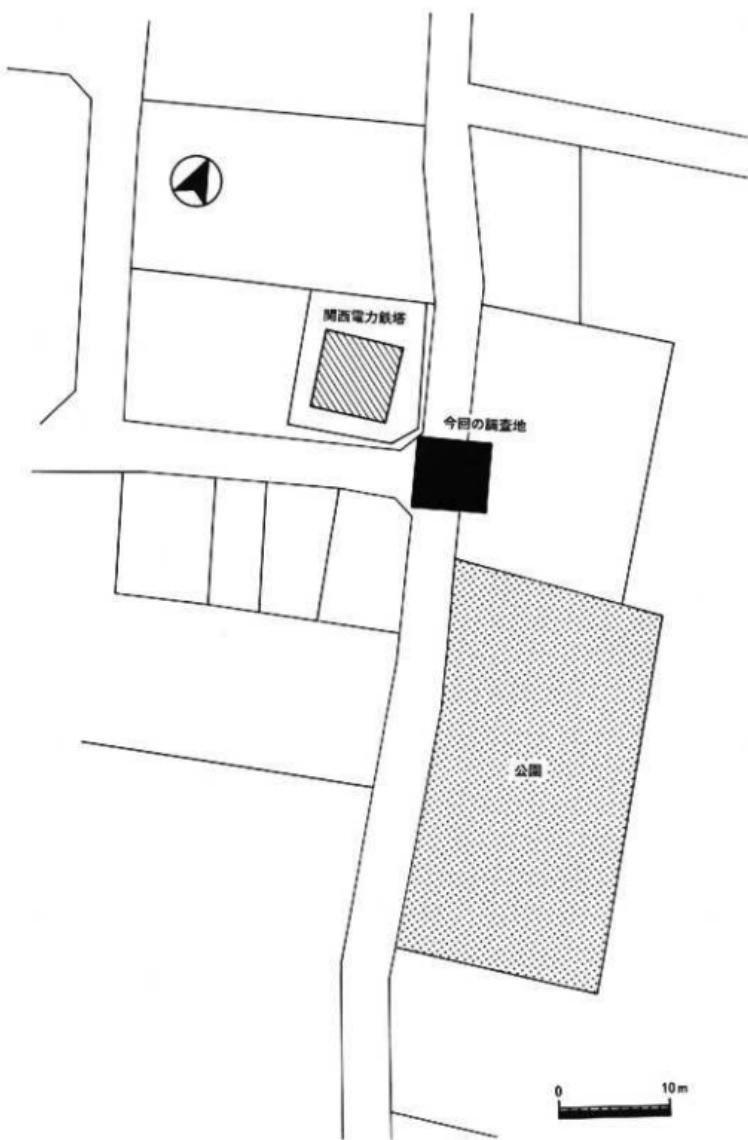
1. はじめに

東弓削遺跡は、八尾市の中央部のやや南に位置し、現在の行政区画では、八尾市の八尾木、東弓削、都塚一帯に広がる遺跡である。当遺跡は、河内平野の中を北または北西方向に流れている長瀬川と玉串川が分岐している「二俣」地区の北側に広がる沖積地上に位置している。同一の沖積地上には当遺跡をはじめとして数多くの遺跡が存在している。当遺跡の北は中田遺跡と接し、さらに北～北西には小阪合遺跡・成法寺遺跡等が位置している。また、当遺跡の東には玉串川を挟んで恩智遺跡、長瀬川を挟んで南に弓削遺跡、西に老原遺跡が位置している。

当遺跡内では、当調査研究会が7件の調査を行っている。また、大阪府教育委員会・八尾市教育委員会により調査が実施されており、調査の結果、弥生時代～中世に至る遺跡であることが判明している。



第1図 調査地周辺図



第2図 調査位置図

2. 調査概要

1) 調査の方法と経過

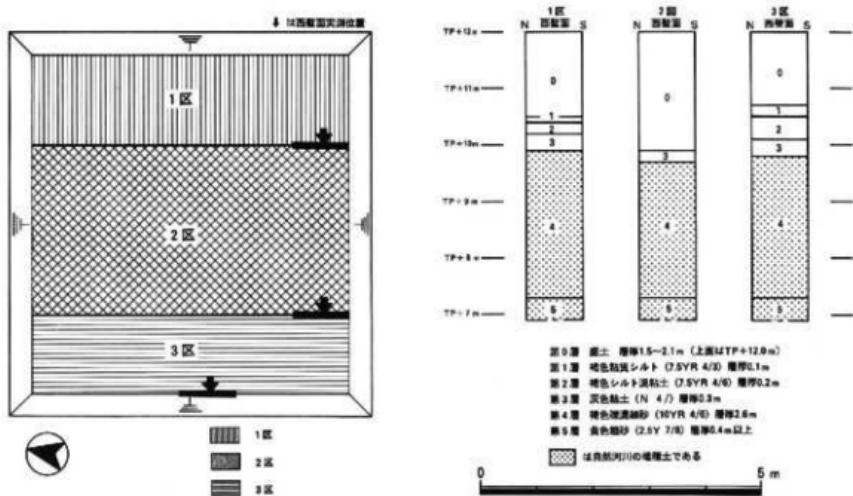
今回の調査は公共下水道工事（平成5年度 112工区）に伴うもので、当調柶研究会が東弓削遺跡内で行った第8次調柶である。調柶は工事部分を対象に約40mを行った。

調柶では工事掘削土の搬出作業等の諸条件から調柶地を3区画に分割し、1区～3区の順に調柶を行なった。調柶にあたっては、現地表下1.5～2.1m前後まで機械掘削を行ない、以下0.1～0.3mについては人力掘削を行なった。また、調柶対象の土層の調柶終了後、工事掘削最終深度である現地表下5.1mまでの堆積土層の確認を行なった。

2) 基本層序

調柶地では、1区と3区で確認できた第0層～第5層を基本層序とした。

第0層 盛土。層厚1.5～2.1m。現地表面の標高はT.P.+12.0m前後である。2区では、現



第3図 調柶区設定図・層序図

地表下約2.1m (T.P.+9.9m) 前後までの堆積土層は既設の水路工事の際に掘削されており、現在のコンクリート等の産業廃棄物を土に混ぜて埋めていたため、本来の堆積土である第1層と第2層は存在していなかった。

- 第1層 褐色粘質シルト (7.5YR 4/3)。層厚0.1m。洪水等の要因で堆積した上層である。
- 第2層 褐色シルト混粘土 (7.5YR 4/6)。層厚0.2m。1区と3区では上面で調査を実施した。しかし遺構の検出はなかった。比較的安定した上層と思われ、遺構を検出するベース面になると推定される。層内からの遺物の出土はなかった。
- 第3層 灰色粘土 (N 4/)。層厚0.3m。
- 第4層 褐色礫混細砂 (10YR 4/6)。層厚2.6m。自然河川の堆積土と同様であるが層内からの遺物の出土はなかった。
- 第5層 黄色粗砂 (2.5Y 7/8)。層厚0.4m以上。第4層の自然河川の堆積土と同じであるがやや粗めの砂が堆積していた。層内からの遺物の出土はなかった。

3) 検出遺構と出土遺物

1区

現地表下約1.6m (T.P.+10.4m) 前後の第2層上面で面的な調査を実施したが、遺構および遺物の検出はなかった。

2区

現地表下約2.1m (T.P.+9.9m) 前後までの堆積土層は既設の水路工事の際に掘削されており、現在のコンクリート等の産業廃棄物を土に混ぜて埋めていたため、本来の堆積土である第1層と第2層は存在していなかった。このため面的な調査は行なっていない。

3区

現地表下約1.6m (T.P.+10.4m) 前後の第2層上面で、1区と同様面的な調査を実施したが、遺構および遺物の検出はなかった。

なお、第4層・第5層は1区から3区の全域で堆積していることを確認したが、遺構および遺物の検出はなかった。この層は自然河川の堆積土と推定される。

3.まとめ

良好な堆積状況が確認できたのは、調査地の東側の1区と西側の3区である。中央の2区は、調査対象としている土層の堆積状況が既存の水路建設に伴う掘削工事により壊されていた。1区と3区では、0~5層を確認した。第2層は比較的安定した土層の堆積で、遺構のベース面である可能性が高いと推測され、上面で調査を行なった。しかし、遺構および遺物の検出はな

かった。第2層上面の時期は、周辺の調査（第1図の①・②）の結果から、平安時代末期以降^{註1 註2}と推定される。

第3層以下の堆積土は1区から3区の全域で堆積していることを確認したが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。なお第4層と第5層は、自然河川の堆積土で、遺物の出土は無く時期の決定は困難である。しかし、当調査地の北西側約100mの地点で、下水道に伴う発掘調査を平成4年度に当調査研究会が行なっており（第1図の②）、弥生時代の上器を含む砂層の堆積を確認していることから、同一の砂層の可能性が高く、おそらく弥生時代に埋没した河川^{註3}であると推定される。

註1 「八尾市文化財調査研究会年報 昭和62年度」1988年 財團法人八尾市文化財調査研究会報告16

註2 「平成4年度助八尾市文化財調査研究会事業報告」財團法人八尾市文化財調査研究会



調査地周辺（西から）



下層掘削状況（北から）



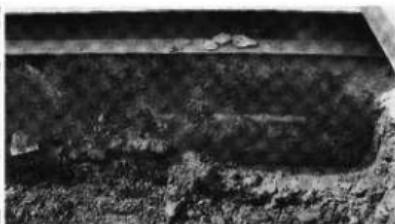
1区（北から）



1区西壁面（東から）



2区（北から）



2区西壁面（東から）



3区（北から）



3区西壁面（東から）

VI 美園遺跡第3次調査(MS94-3)

例 言

1. 本書は、大阪府八尾市美園町2丁目で実施した公共下水道工事（平成5年度 第23工区）に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本書で報告する美園遺跡第3次調査（MS94-3）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書（八教社文第37号 平成6年4月19日）に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成6年5月13日～5月19日にかけて、高萩千秋を調査担当として実施した。調査面積は約23m²である。なお、調査においては八田雅美が参加した。
1. 本書に関わる業務は、図面レイアウト・トレースー市森、遺物写真・本文の執筆－高萩が担当した。

本 文 目 次

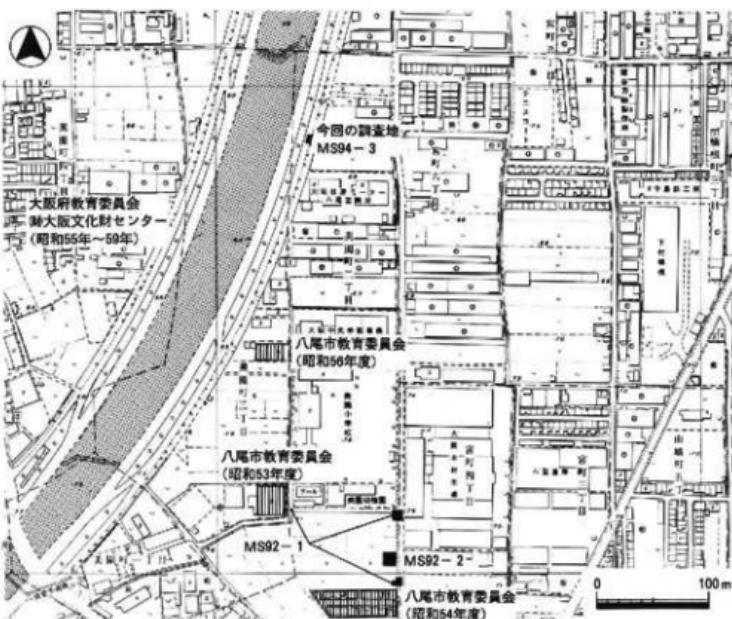
1.はじめに.....	37
2.調査概要.....	38
1) 調査の方法と経過.....	38
2) 基本層序.....	38
3) 検出遺構と出土遺物.....	39
3.まとめ.....	40

VI 美園遺跡第3次調査 (MS94-3)

1. はじめに

美園遺跡は、八尾市北西部の美園町1～4丁目一帯に存在し、地理的には長瀬川右岸の沖積地に位置する弥生時代から近世にかけての複合遺跡である。当遺跡の周辺には東に萱振遺跡、南東に宮町遺跡、南に佐堂遺跡、北に新家遺跡(東大阪市)・山賀遺跡が存在する。

今回の調査地の西側には近畿自動車道が位置し、助大阪文化財センターによる大規模な発掘調査が行われており、弥生時代前期の堅穴住居を主とする住居域、古墳時代前期の家形埴輪を出土したことで知られる美園古墳の発見をはじめとして、多大な成果がえられている。また、今回の調査地の南部へ約200m地点では八尾市教育委員会が昭和56年度に行った調査地があり、その調査成果では古墳時代前期(庄内式期～布留式古段階)の集落が検出されている。



第1図 調査地位置図及び周辺図

2. 調査概要

1) 調査の方法と経過

今回の調査は公共下水道（5-23工区）工事に伴うもので、当調査研究会が美闇遺跡内で実施した第3次発掘調査（MS94-3）にあたる。調査区は立坑1か所（縦6.8m×横3.6m）で、面積約23m²を測る。工事による掘削深度（G.L.-5.8m）まで土層の確認を実施した。調査期間は、平成6年5月13日から5月19日までであった（うち実働4日）。

調査は、現地表下約1.1~1.2mまでの土層を機械で排除し、1段目の腹起しまでを1次掘削、次いで2段目の腹起しまでを2次掘削、最後に最終掘削深度までの3次掘削を行った。

1次掘削は、現地表下2.2mまで掘削した。1.8~2.0mに存在が予想された弥生時代終末期~古墳時代前期に相当する包含層及び遺構面までを機械で徐々に掘削を行ったが、包含層・遺構面となる土層は認められなかった。2次掘削は、現地表下2.2~4.5mを掘削。3次掘削は現地表下4.5~5.8mまでの土層を確認するため機械及び人力を併用して掘削を行った。

2) 基本層序

第1層 盛土（層厚130cm）。中央環状線の道路下であり、アスファルト・パラス・盛り土が堆積している。また、公共（水道・排水管など）施設の埋設工事で攪乱している。

第2層 乳灰色粘土（層厚20cm前後）。褐色の斑点が見られる。上部は削平されてるが、中世の耕作土と思われる。

第3層 乳灰色微砂（層厚20~25cm）。洪水層。

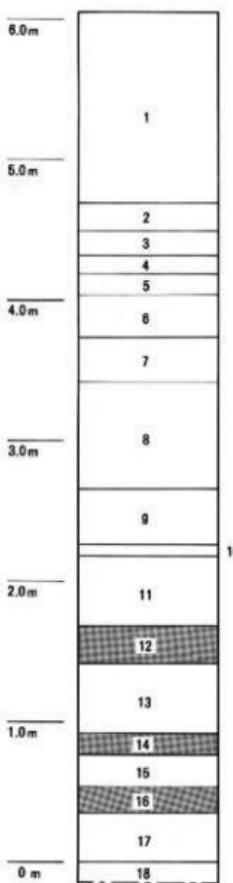
第4層 茶灰色粘土混微砂（層厚20cm）。洪水層。

第5層 淡灰色粘土（層厚15~20cm）。褐色の斑点が見られる。平安時代末の水田耕作土と思われる。

第6層 暗灰色粘土（層厚30cm前後）。粘着土の強い粘土で、内部には1~3cmぐらいの粒



第2図 調査区位置図



第3図 基本層序柱状図
第4層は平安時代末の水田耕作土と考えられる。また、現在の盛り土により削平を受けていたが第2層も同様、水田耕作土と考えられる土層であることが考えられる。このことから当地周辺では平安時代末以降、生産域であったことがいえるであろう。

出土遺物については、調査区内で検出した各土層では遺物の含む層はなかった。

3. まとめ

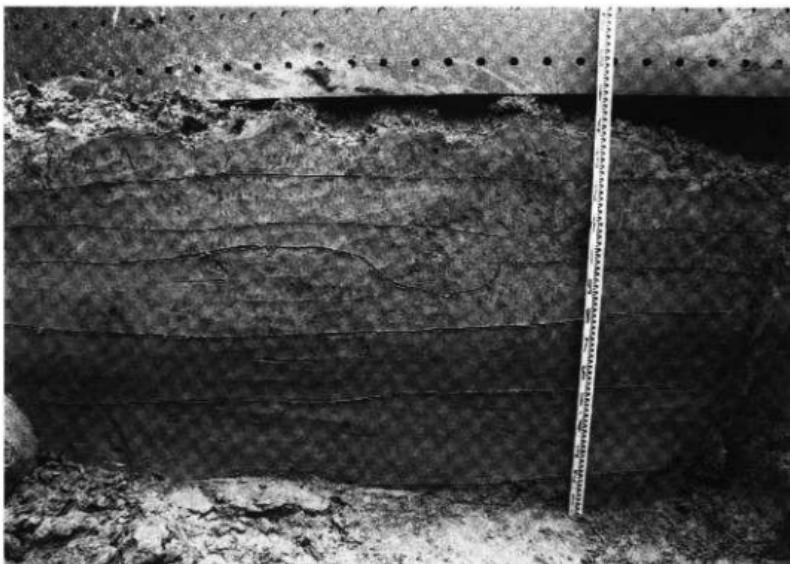
今回の調査は、小さな面積の調査であったが、深層部までの土層の堆積状況を確認することができた。

調査地の南部約200mの地点では、古墳時代前期の掘建柱建物や井戸・溝などの集落遺構が検出されていることから、北側にも居住域が広がるものと考えられた。しかし、集落遺構が存在する面（標高4m前後）ではなく、同一レベルの地層には植物遺体が多く含んでいる層であった。この層から判断すると当地周辺は湿地帯であったことが考えられる。また下層でも同様な堆積状況がみられることから古墳時代前期以前も湿地帯であったことがいえる。

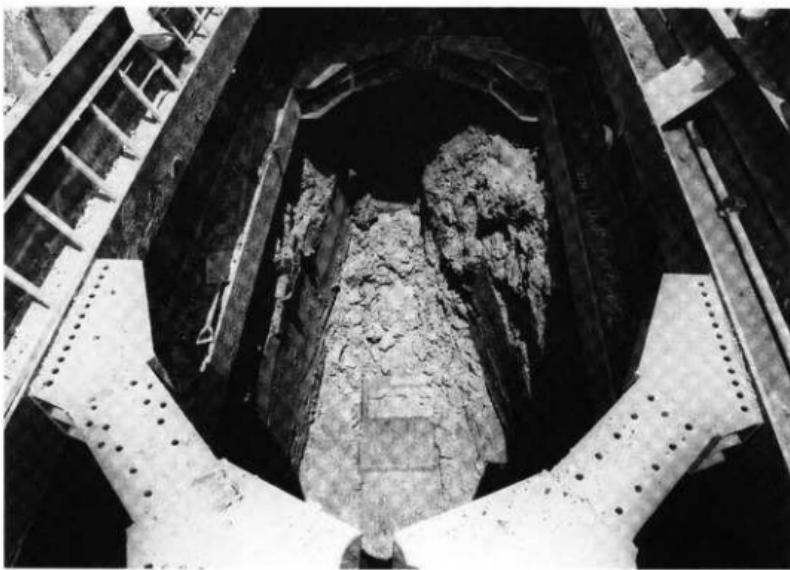
これらのことから、今回の調査地点は、美園遺跡の弥生時代から古墳時代前期の居住域からはずれた部分にあたるものと考えられる。

参考文献

- ・助大阪文化財センター「美園」1985
- ・八尾市教育委員会「5. 佐堂遺跡」「6. 佐堂遺跡」『昭和53・54年埋蔵文化財発掘調査年報』1981
- ・助八尾市文化財調査研究会「第5章美園遺跡初報調査報告」「八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度」1983
- ・助八尾市文化財調査研究会「X 美園遺跡（第1次調査）・X I 美園遺跡（第2次調査）」「八尾市文化財発掘調査報告」八尾市文化財調査研究会報告39 1993



西壁断面（東から）



下層状況（南から）



VII 八尾南遺跡第20次調査(YS94-20)

八尾市立八尾南遺跡

例 言

1. 本書は、大阪府八尾市若林町1～3丁目で実施した電気管路埋設工事に伴う発掘調査の報告書である。
1. 本書で報告する八尾南遺跡第20次調査(YS94-20)の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書(八教社文第37号 平成6年4月19日)に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が㈱関西電力から委託を受けて実施したものである。
1. 現地調査は平成6年6月14日～6月23日にかけて、高萩千秋を調査担当として実施した。調査面積は約46m²である。なお、調査においては八田雅美・市森千恵子・西岡千恵子が参加した。
1. 本書に関わる業務は、遺物実測－西岡、図面レイアウト・トレースー市森・川上節子、遺物観察表－西岡、遺物写真・本文の執筆－高萩が担当した。

本 文 目 次

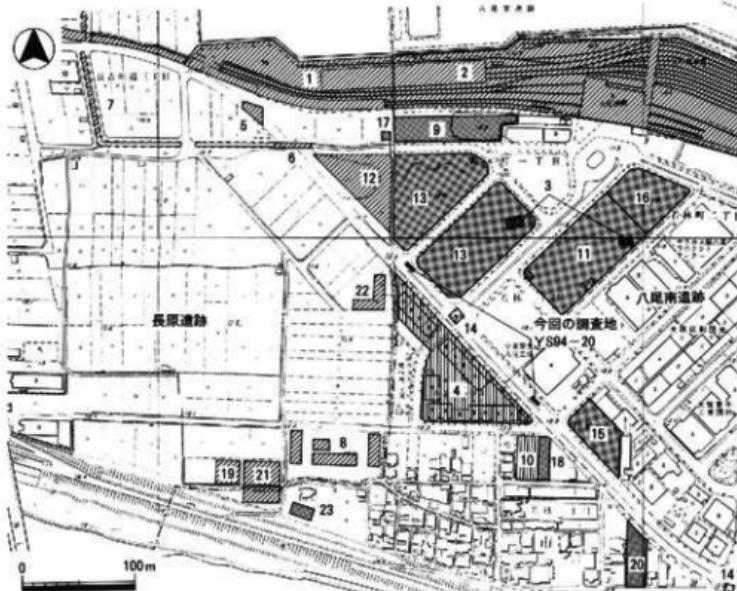
1.はじめに.....	43
2.調査概要.....	45
1)調査の方法と経過.....	45
2)基本層序.....	46
3)検出遺構と出土遺物.....	49
3.まとめ.....	54

VII 八尾南遺跡第20次調査 (YS94-20)

1. はじめに

八尾南遺跡は、大阪府八尾市の南西部にあたる若林町1～3丁目・西木の本1～4丁目一帯に広がっている遺跡である。周辺の遺跡には、西側に市域を境とする大阪市長原遺跡をはじめとし、東に木の本遺跡、南に藤井寺市津堂遺跡、北に大阪市城山遺跡が存在している。

当遺跡は、昭和53～54年度に地下鉄谷町線八尾南駅建設工事に伴う発掘調査が実施され、後期石器時代～鎌倉時代に至る複合遺跡として認識された。それ以後も、当遺跡では、現在までに二十数件の発掘調査が実施されている。調査主体の内訳として大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・八尾南遺跡調査会・当調査研究会がある。これらの調査成果から、特に当遺跡の南部には旧石器時代～鎌倉時代に至る遺構・遺物が重複し、広範囲に分布していることが明らかになっている。今回の調査地は、当遺跡の西南部に位置し、当調査研究会が実施した第20次調査にあたる。



第1図 調査地位置図及び周辺図

第1表 八尾南遺跡及び隣接の大阪市長原遺跡発掘調査一覧表

No.	調査原因(略号)	調査地	年度	調査機関	文 献
1	地下鉄谷町2号線建設	木の本・若林町・大阪市長原	1977	長原遺跡調査会	「長原遺跡発掘調査報告書」
	地下鉄谷町3号線建設	長吉川辺3丁目	1977	長原遺跡調査会	「長原遺跡発掘調査報告書」
	地下鉄谷町2号線建設	長吉川辺3丁目	1978	長原遺跡調査会	「長原遺跡発掘調査報告書XV」
2	地下鉄谷町2号線建設	木の本・若林町	1978	八尾南遺跡調査会	「八尾南遺跡」1977
3	鉄道施設	若林町1丁目	1979	八尾市教育委員会	『八尾南遺跡・東郷遺跡発掘調査概要』八尾市文化財調査報告6 1981
4	分譲住宅建設	若林町2丁目	1980	八尾市教育委員会	—
5	区画整理事業	長吉川辺3丁目	1980	鶴大阪市文化財協会	「長原遺跡発掘調査報告書」
6	区画整理事業	長吉川辺3丁目	1981	鶴大阪市文化財協会	「長原遺跡発掘調査報告X」
7	区画整理事業	長吉川辺3丁目	1982	鶴大阪市文化財協会	—
8	大阪市営住宅建設	長吉川辺3丁目	1982	鶴大阪市文化財協会	—
9	分譲住宅建設(YS83-2)	若林町1丁目	1984	当調査研究会	「1. 八尾南遺跡(第2次調査)」「昭和59年度事業概要報告書」当調査研究会報告7 1985
10	共同住宅建設	若林町3丁目	1984	八尾市教育委員会	「4. 八尾南遺跡<若林町3丁目117~119>」「八尾市内遺跡昭和60年度発掘調査報告書」八尾市文化財調査報告11 1985.3
11	事務所建設(YS87-5)	若林町1丁目	1986	当調査研究会	「7. 八尾南遺跡(第5次調査)」「八尾市文化財調査研究会年報 昭和62年度」当調査研究会報告16 1987
	事務所建設(YS89-15)	若林町1丁目	1988	当調査研究会	「11. 八尾南遺跡(第15次調査)」「八尾市文化財調査研究会年報 平成元年度」当調査研究会報告28 1989
12	大阪市営住宅供給公社八尾南分譲住宅建設(NG86-3)	長吉川辺3丁目	1986	八尾市教育委員会 鶴大阪市文化財協会	「 XIV. 平野区長原遺跡」「昭和61年度大阪市内埋蔵文化財伝承地発掘調査報告書」1988.3
13	店舗付近宅建設(YS87-8)	若林町1丁目	1987	当調査研究会	「1. 八尾南遺跡(第8次調査)」「昭八尾市文化財調査研究会報告47」1995
14	公共下水道工事	若林町	1988	大阪府教育委員会	「八尾南遺跡-旧石器出土第3地点-」第31 1989.3
15	工場建設(YS88-12)	若林町2丁目	1988	当調査研究会	「n. 八尾南遺跡(第12次調査)」「八尾市文化財調査研究会報告47」1995
16	事務所建設(YS88-13)	若林町1丁目	1988	当調査研究会	「23. 八尾南遺跡(第13次調査)」「八尾市文化財調査研究会年報 昭和63年度」当調査研究会報告25 1988
17	公共下水道工事(NG87-1)	長吉川辺3丁目	1988	当調査研究会	「24. 長原遺跡(第1次調査)」「八尾市文化財調査研究会年報 昭和65年度」当調査研究会報告35 1989
18	共同住宅建設(YS89-14)	若林町3丁目	1989	当調査研究会	「11. 八尾南遺跡(第14次調査)」「昭八尾市文化財調査研究会年報 平成元年度」当調査研究会報告28 1989
19	学園建設(NG89-46)	長吉川辺3丁目	1989	鶴大阪市文化財協会	—
20	社屋建設(YS91-17)	若林町3丁目	1990	当調査研究会	「III. 八尾南遺跡(第17次調査)」「鶴八尾市文化財調査研究会報告47」1995
21	共同住宅建設(NG93-1)	長吉川辺3丁目	1993	鶴大阪市文化財協会	「古墳時代のまつりのあと」「烽火」1993.12
22	共同住宅建設(NG93-50)	長吉川辺3丁目	1994	鶴大阪市文化財協会	「井戸」「烽火」49号 1994.4
23	共同住宅建設(YS95-23)	若林町3丁目152	1995	当調査研究会	—

2. 調査の概要

1) 調査の方法と経過

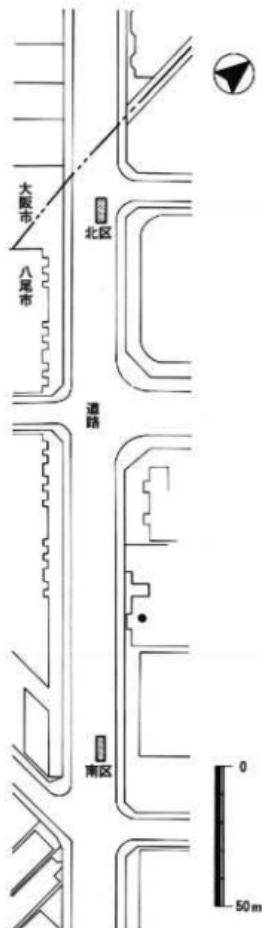
発掘調査は地中配電管路工事に伴うもので、八尾市教育委員会の指示に基づき、当調査研究会が事業者と協定を締結して調査を実施した。

調査区は、人孔部分の2ヶ所である。調査方法は道路上の規制など諸事情があり、上層（現地表下1.5mまで）については素掘り、下層部分については壁面崩壊等の安全策を考慮にいれ、簡易矢板を打ち付けて調査を行った。まず北部の人孔（北区）から調査（6月14日～15日）を行った。北区は東部に隣接する第8次調査で、弥生時代後期から古墳時代中期の遺構・遺物が現地表下1.5～2.5m（標高10.0～11.0m）で確認されており、その調査成果をもとに機械及び人力掘削を実施した。また、下層においては旧石器時代の土層内より石器片が確認されており、工事掘削で破壊される深度まで掘削し、地層の状況について調査を行った。北区の調査終了後、南東へ約200m地点に位置する南部の人孔（南区）の調査（6月21日～22日）を行った。南区の調査区では北東部に隣接する第12次調査で、古墳時代中期の遺構・遺物が現地表下1.2m（標高11.3m前後）で確認されており、その調査成果を参考に機械及び人力掘削を行った。また、北区と同様、工事掘削深度までの地層について調査を実施した。以下、今回の調査成果について記す。

註1 『八尾市文化財調査研究会「I. 八尾南遺跡第8次調査」』

『八尾南遺跡 財團法人八尾市文化財調査研究会報告47』1994

註2 註1と同じ、「II. 八尾南遺跡第12次調査」

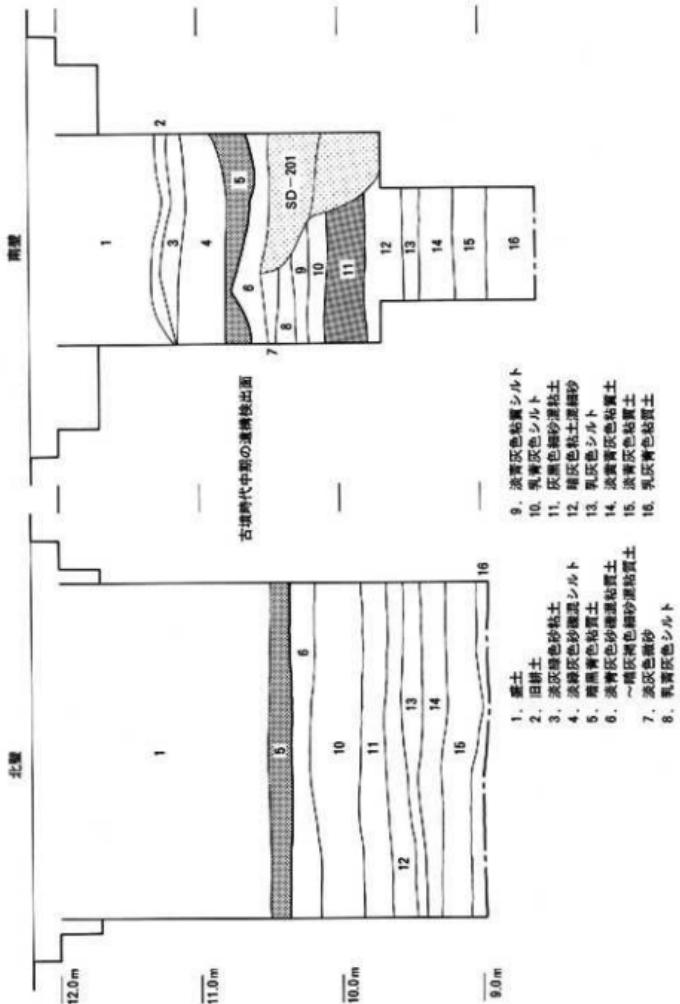


第2図 調査区位置図

2) 基本層序

第2図に掲載しているのは北部と南部で確認した基本層序である。

第1層 盛土。層厚150~180cm。アスファルト・パラス・区画整理で整地した盛土・埋設工事による搅乱。北側では第5層まで削平されている。



第3図 北区基本層序柱状図

- 第2層 旧耕土。層厚10cm前後。区画整理で整地されるまでの耕作土である。上面高は標高11.4mを測る。
- 第3層 淡灰緑色粘土。層厚15cm前後。床土である。
- 第4層 淡緑灰色砂疊混シルト。層厚25~40cm。中近世の土層である。
- 第5層 暗黒青色粘質土。層厚15cm。古墳時代中期の遺物を含む遺構（SO-1）の埋土である。
- 第6層 淡青灰色砂疊混粘質土～暗灰褐色細砂混粘質土。層厚15~20cm。古墳時代中期の遺構検出面である。
- 第7層 淡灰色微砂土。層厚10cm前後。この上面から弥生時代後期以前のものと思われる溝が切り込まれている。
- 第8層 乳青灰色シルト。層厚10~15cm。
- 第9層 淡青灰色粘質シルト。層厚10~15cm。
- 第10層 乳青灰色シルト。層厚30~35cm。
- 第11層 灰黒色細砂混粘土。層厚15~20cm。炭化物が多量に含む層で、長原遺跡でいわれてある第13A層に対応する層である。
- 第12層 暗灰色粘土混細砂。層厚10~20cm。
- 第13層 乳灰色シルト。層厚5~15cm。堅くしまった層で、旧石器時代に相当する上層と考えられる。
- 第14層 淡黄青灰色粘質土。層厚10~18cm。
- 第15層 淡青灰色粘質土。層厚20~25cm。
- 第16層 乳灰青色粘質土。層厚10cm以上。

南北区

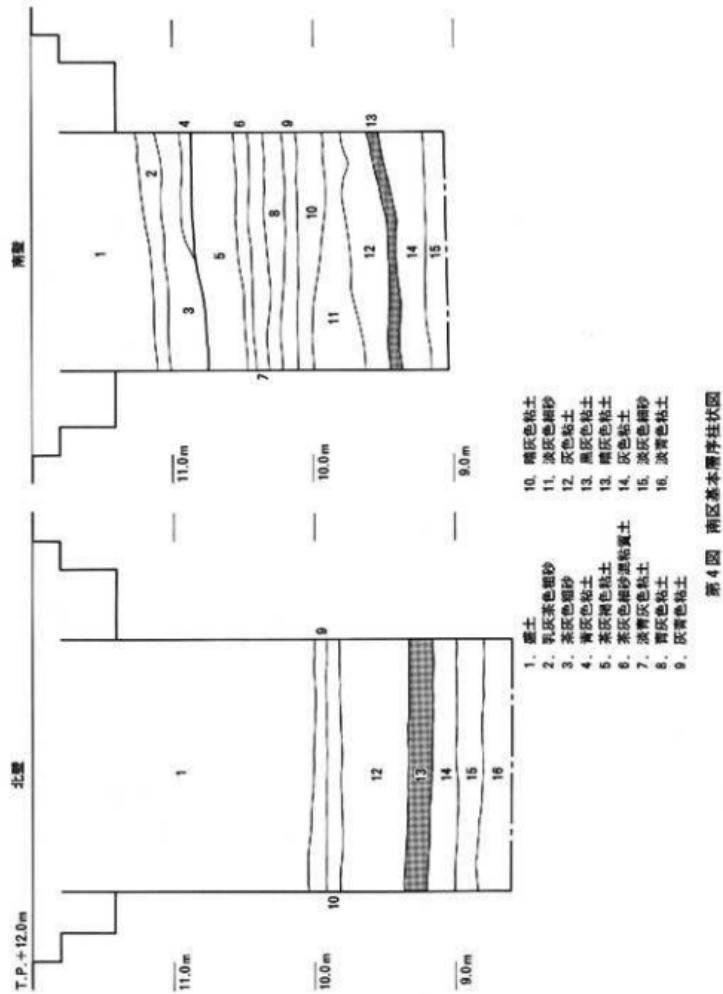
- 第1層 盛土。層厚120~200cm。北区と同様、アスファルト・バラス・区画整理で整地した盛土・埋設工事による擾乱。北側では第5層まで削平されている。
- 第2層 乳灰茶色粘質土。層厚10~20cm。少量の細砂粒が含まれる。
- 第3層 茶灰色粗砂。層厚20~30cm。上面が近接の既往調査（YS89-12）で検出した古墳時代中期の遺構検出面に対応する。
- 第4層 青灰色粘土。層厚20cm前後。
- 第5層 茶灰褐色粘土。層厚10~15cm。二酸化マンガンと思われる褐色の斑点がみられる。
- 第6層 茶灰色細砂混粘質土。層厚5~10cm。
- 第7層 淡青灰色粘土。層厚20cm前後。

第8層 青灰色粘土。層厚10~15cm。

第9層 灰青色粘土。層厚10cm前後。

第10層 暗灰色粘土。層厚10~15cm。

第11層 淡灰色細砂。層厚50cm前後。弥生時代前期から中期の時期に堆積した洪水層と考えられる。



- 第12層 灰色粘土。層厚15~25cm。
- 第13層 黒灰色粘土。層厚10cm前後。炭化物を多量に含む層である。この層は近接調査の層位から縄文時代晩期に対応する層である。北へ行くに従い層厚が厚くなり、落ち込む。
- 第14層 灰色粘土。層厚20~30cm。粘性の強い粘土である。
- 第15層 淡灰色細砂土。層厚5~10cm。北へ行くに従い層厚が厚くなり、落ち込む。
- 第16層 淡青色粘土。層厚20cm以上。北へ行くに従い低く落ち込む。上面は標高8.5~8.7mを測る。

3) 検出遺構と出土遺物

北区

調査の結果、現地表下約1.8m（標高10.5m）~3.0m（7.8m）で旧石器時代～古墳時代中期にかけての遺構・遺物を検出した。旧石器時代のものは現地表下約3.0mに存在する第13層と思われる層で、長原遺跡でいわれている「第13A層」にあたるものである。現地表下約1.8mに存在する第6・7層上面で溝1条（SD-201）を検出した。現地表下約2.0mに存在する第6層上面は弥生時代後期から古墳時代中期の遺構面である。当区では落ち込み状遺構（SO-101）が北部で検出した。

以下、検出した遺構について記す。

溝（SD）

SD-201

調査区南部で検出した。方向はほぼ東西方向を示し、幅約2.0m、深さ0.7mを測る。堆積土は淡灰色細砂～粗砂で、断面形は半円形を呈する。遺物は調査区内の埋土内には含まれていなかった。が、周辺の調査の状況から判断して弥生時代後期以前の時期のものに想定される。

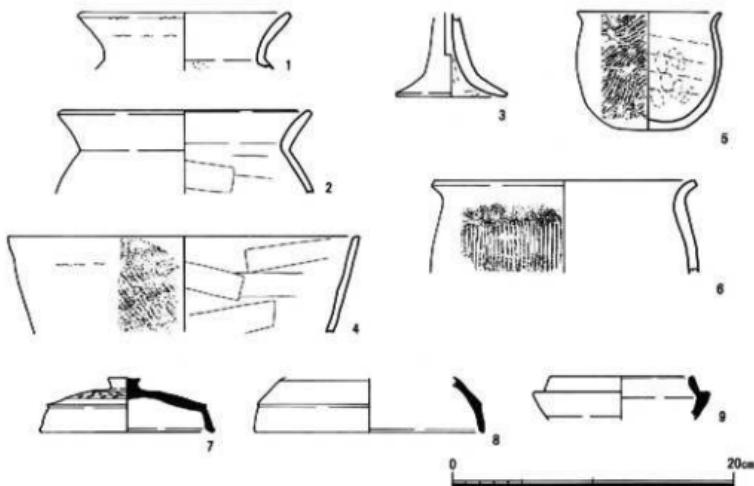
落ち込み状遺構（SO）

SO-101

調査区の北部で検出した。北・東西は調査区外に至る。南部は近代井戸によって削平されており、平面形は不明である。深さは調査区内で約20cmを測り、底面はフラットである。堆積土は暗黒青色細砂混粘質土の層で、内部から古墳時代中期に比定される土師器・須恵器・韓式系土器の破片を出土した。図示できたものは上師器の壺（1・2）、高壺（3）、韓式系の鉢（4~6）、須恵器の壺蓋（7・8）、环身（9）である。

南区

調査の結果、現地表下約1.2m（標高10.8m）~3.1m（標高8.9m）で縄文時代後期から奈良



第5図 SO-101出土遺物実測図

出土遺物観察表

遺物番号	器種	法量(cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
1	壺 (土師器)	口径 14.6	外面-ヨコナデ・接合痕 内面-剥離の為、調整不明	乳灰茶色	2 mm以下の砂粒を多量に含む(長石・雲母・石英)	良好	
2	同上	口径 17.4	外面-口縁部ヨコナデ・ 体部ナデ 内面-口縁部ヨコナデ・ 体部ヘラナデ	淡灰茶色	2 mm以下の砂粒を多量に含む(長石・雲母・石英)	良好	
3	高环 (土師器)	口径 7.8	外面-磨耗の為調整不明 内面-脚部しばり日・裾部ヘラナデ	淡褐灰色	1 mm以下の砂粒を多量に含む(長石・赤褐色鐵化粒)	良好	煤付有
4	鉢 (縄式系土器)	口径 25.0	外面-タタキ・接合痕 内面-ヘラナデ	淡灰黃茶色	3 mm以下の砂粒を多量に含む(長石・石英)	良好	
5	同上	口径 10.0 器高 8.5	外面-口縁部ヨコナデ・ 体部タタキ(5本/cm) 内面-口縁部ヨコナデ・ 体部ナデ・指頭痕	乳灰茶色	2 mm以下の砂粒を多量に含む(長石・雲母)	良好	
6	同上	口径 18.4	外面-口縁部ヨコナデ・ 体部縦擦文 内面-口縁部ヨコナデ	淡黄橙色	3 mm以下の砂粒を含む(長石・雲母)	良好	

7	蓋 (須恵器)	口径 12.0 高さ 3.9 つまみ径 2.2	外面-回転ナデ・縦排列 点文 内面-回転ナデ	淡青灰色	密	良好	
8	同 上	口径 16.2	外面-回転ナデ・回転ヘ ラケズリ 内面-回転ナデ	灰白色	密	良好	
9	坏身 (須恵器)	口径 10.0	外面-回転ナデ・回転ヘ ラケズリ 内面-回転ナデ	明青灰色	密	良好	

時代の遺構・遺物を検出した。現地表下1.1mの第2層上面で古墳時代中期以降に比定される小穴(SP-101)を検出した。現地表下1.2mの第3層上面で古墳時代中期に比定される遺構を確認、第4層上面では古墳時代中期以前の溝(SD-201)1条を検出した。さらに第11層は縄文時代後期から晩期に相当する上層と考えられる。

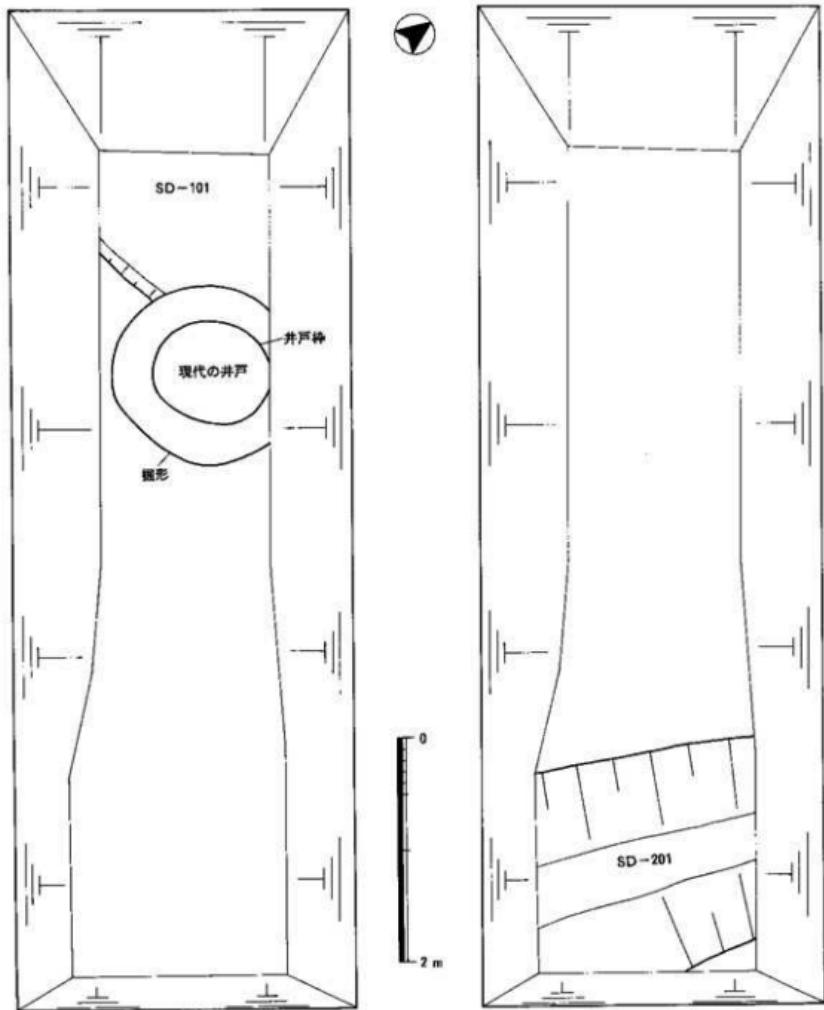
以下、検出した遺構について記す。

SP-101

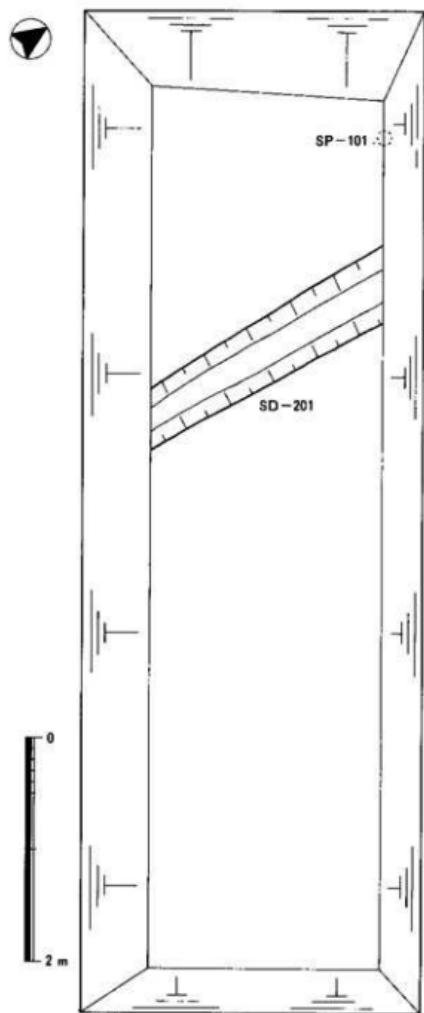
調査区の東壁面北側で検出した。平面はほぼ円形を呈し、幅約0.12m、深さ0.25mを測る。堆積土は暗灰色粘質土で、断面形はU字形を呈する。遺物は含まれていなかったが、周辺調査(第12次調査)の状況から判断して弥生時代後期～古墳時代中期の時期に想定される。

SD-201

調査区中央よりやや北部で検出した。方向はほぼ南北方向を呈し、幅0.6m、深さ0.4mを測る。堆積土は淡灰色細砂で、断面形は半円形を呈する。遺物は調査区内の埋土には含まれていなかったが、周辺調査(第12次調査)の状況から判断して弥生時代後期～古墳時代中期の時期に想定される。



第6図 北区造構平面図



第7図 南区造構平面図

3. まとめ

今回の調査は、隣接する既往調査の成果を踏まえて調査を行った。調査区は北区・南区ともに小面積であり、遺構の全体像を把握できたものはなかったが、当調査地にも各時代の遺構面が断続的に存在することがわかった。以下、各区について記す。

北区では、羽曳野丘陵の先端部分にあたり、IH石器時代に相当する土層（洪積層）を下層調査で確認した。当調査地周辺でも旧石器時代の相当する土層内から石器類の出土があるが、今回の調査区は小面積な調査であり、石器類の出土はなかった。上層では古墳時代中期の遺構が存在することが確認された。検出した遺構内には朝鮮半島から伝播した上器といわれている韓式系上器が含まれていた。この韓式系上器は当遺跡及び西側に接する大阪市長原遺跡の調査で検出しており、調査地の周辺地域が渡来系一族ないしは深くかかわりのある人々が居住していた所であったことがより一層確実なものになる資料となるものである。この時期の上層は第8次調査と同一レベルで確認したが、遺構は検出できなかった。

南区では旧石器時代の相当層は現地表下3.4mまでの地層には存在しなかった。もっと深い部分にあるのか、それとも丘陵の谷間の部分にあたる冲積地と考えられる。縄文時代後期に相当する層を確認しており、平面的な調査を行えば、存在する可能性がある。古墳時代中期の遺構面は検出したが、南区では検出しなかった。



北区全景（南東から）



北区北西壁（南東から）



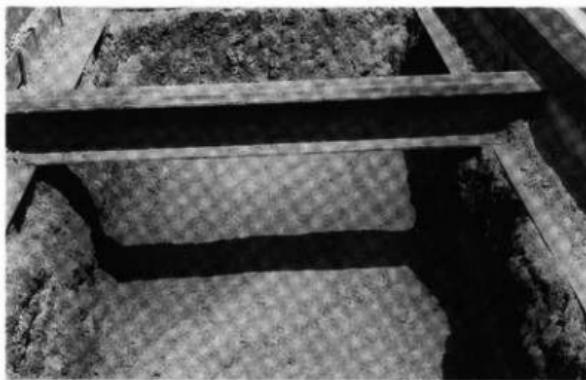
北区南東壁（北面から）



北区下層（南東から）

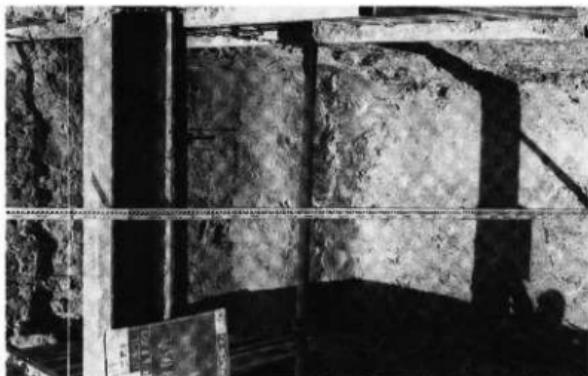


南区北西部（南東から）



南区南東部（北西から）

図版三





3



4



5



6



7



8

報告書抄録

ふりがな	ざいだんはうじんやおしづんかざいちょうさけんきゅうかいはうこく						
書名	財團法人 八尾市文化財調査研究会報告50						
著者名	I 木の本遺跡（第6次調査） II 久宝寺遺跡（第19次調査） III 小阪台遺跡（第27次調査） IV 志紀遺跡（第2次調査） V 東弓削遺跡（第8次調査） VI 美園遺跡（第3次調査） VII 八尾南遺跡（第20次調査）						
巻次							
シリーズ名	御八尾市文化財調査研究会報告50						
編集者名	VI・VII 高橋千秋 I・V 西村公助 II 坪田真一 III・IV 中野英史						
編集機関	財團法人 八尾市文化財調査研究会						
所在地	〒581 大阪府八尾市青山町4-4-18						
発行年月日	1996年3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	調査期間	測量面積 (m ²)	調査面積
		市町村 番号					
I 木のもと 木の本の本遺跡 (第6次調査)	おおさかふやおしづみなみきのもと 大阪府八尾市南木の本4丁目	27212	34度 35分 40秒	135度 35分 50秒	19950303 ～ 19950711	71	電話地下施設 工事に伴う事前 調査
II きゅうほうじ 久宝寺遺跡 (第19次調査)	おおさかふやおしにしきゅうほうじ 大阪府八尾市西久宝寺	27212	34度 37分 38秒	135度 34分 45秒	19950113 ～ 19950227	25.92	公共下水道工 事に伴う事前 調査
III こざかい 小阪台遺跡 (第27次調査)	おおさかふやおしあおあやまちょう 大阪府八尾市青山町2丁目	27212	34度 37分 12秒	135度 36分 50秒	19950509 ～ 19950520	36	公共下水道工 事に伴う事前 調査
IV しき 志紀遺跡 (第2次調査)	おおさかふやおしきにし 大阪府八尾市志紀西2丁目	27212	34度 35分 50秒	135度 36分 47秒	19950322 ～ 19950520	22	公共下水道工 事に伴う事前 調査
V ひがしゆげ 東弓削遺跡 (第8次調査)	おおさかふやおしようぎ 大阪府八尾市八尾木3丁目	27212	34度 36分 21秒	135度 36分 59秒	19951003 ～ 19951020	40	公共下水道工 事に伴う事前 調査
VI みその 美園遺跡 (第3次調査)	おおさかふやおしおその 大阪府八尾市美園2丁目	27212	34度 38分 00秒	135度 35分 54秒	19950513 ～ 19950519	23	公共下水道工 事に伴う事前 調査
VII やおひなん 八尾南遺跡 (第20次調査)	おおさかふやおわしかばやし 大阪府八尾市若林町1～3丁目	27212	34度 36分 30秒	135度 35分 00秒	19950614 ～ 19950623	26	電気管路設 工事に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
木の木	集落	平安時代後期	自然河川・水田				
久宝寺	集落	古墳時代前期	自然河川	土師器			
小阪台	集落	弥生時代後期 古墳時代後期	自然河川 水田	弥生土器・須恵器 土器・瓦器			
志紀	集落	弥生時代後期～ 中世	水田				
東弓削	集落	平安時代末期	自然河川				
美園	集落	平安時代末	水田				
八尾南	集落	古墳時代中期	溝2条・落ち込み 状遺構1ヶ所・小穴1個	土師器・須恵器・韓 式土器			

財団法人 八尾市文化財調査研究会報告50

- I 木の本遺跡（第6次調査）
- II 久宝寺遺跡（第19次調査）
- III 小阪合遺跡（第27次調査）
- IV 志紀遺跡（第2次調査）
- V 東円削遺跡（第8次調査）
- VI 美園遺跡（第3次調査）
- VII 八尾南遺跡（第20次調査）

発行 1996年3月31日

編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市青山町4丁目4番18号
TEL・FAX 0729 94 4700

印刷 明新印刷株式会社
表紙 レザック66 <260kg>
本文 ニューアルゴン <70kg>
図版 ニューアルゴン <70kg>

